

授業科目名： 情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 納庄聡・若杉祥太 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報倫理について説明できる。</li> <li>・インターネットの脅威や犯罪とその対策について説明できる。</li> <li>・ネット時代のコミュニケーションや情報モラルについて説明できる。</li> <li>・個人情報や著作権の保護、AIの倫理について説明できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>情報社会の進展により情報倫理の重要性がますます高まっている。本講義では、インターネットの進化やメディアの変遷、それに伴うコミュニケーション、犯罪など、情報社会の光と影について、事例紹介を中心に学習し、それぞれの進路や視点に応じた考察ができることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 情報倫理の概要（担当：若杉祥太）			
第2回：情報通信社会におけるインターネットの進化と変遷（担当：若杉祥太）			
第3回：情報技術とセキュリティ（担当：若杉祥太）			
第4回：メディアの変遷（担当：納庄聡）			
第5回：メディアリテラシー（担当：納庄聡）			
第6回：ネット時代のコミュニケーション（担当：納庄聡）			
第7回：インターネットと犯罪（担当：納庄聡）			
第8回：ソーシャルネットワーキングサービスと情報モラル（担当：納庄聡）			
第9回：デジタルデバイスとユニバーサルデザイン（担当：納庄聡）			
第10回：企業と情報倫理（担当：納庄聡）			
第11回：科学技術と倫理（担当：納庄聡）			
第12回：個人情報とプライバシー（担当：若杉祥太）			
第13回：知的所有権とコンテンツ（担当：若杉祥太）			
第14回：ビッグデータとAIの倫理（担当：若杉祥太）			
第15回：授業のまとめ 情報通信社会とリテラシー（担当：若杉祥太）			
テキスト			
・高橋慈子、情報倫理ネット時代のソーシャルリテラシー（改訂3版）、技術評論社、2023年			
参考書・参考資料等			

・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編、文部科学省

学生に対する評価

各回における小レポート100%

授業科目名： 情報処理演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：納庄 聡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 Pythonを使って様々なプログラムを作成できる。			
授業の概要 授業の序盤では、プログラミングを行うために必要な基礎知識として、アルゴリズムやフローチャートについて学習する。その後、Pythonを用いてコンピュータプログラミングの基礎的な部分に関する講義・演習を行う。最後には、これまで学習したプログラムを組み合わせた実践的なプログラムを作成する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・プログラムの基本 第2回：アルゴリズム 第3回：フローチャート 第4回：基本的データ構造 第5回：Pythonの導入 第6回：スクリプトファイルと入力の基本 第7回：データ型の基本 第8回：基本構文と関数 第9回：ライブラリとモジュール 第10回：アプリケーションの作成 第11回：オブジェクト指向とクラス 第12回：画像処理 第13回：実践プログラムの作成1 第14回：実践プログラムの作成2 第15回：まとめ			
テキスト これ以上やさしく説明できない！Pythonはじめの一步（西晃生、ナツメ社）			
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉解説 情報編（文部科学省、開隆堂出版）			
学生に対する評価 各回の課題提出（100%）			

授業科目名：数理情報	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：守本 晃 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常微分方程式とモデルの関係について学ぶ。</li> <li>・ 常微分方程式の基本的な解法とコンピュータによる数値解法を学び、解のグラフを描く。</li> <li>・ ラプラス変換とそれを用いた定数係数線形常微分方程式の初期値問題の解法を理解する。</li> <li>・ 連立線形微分方程式の解法を学ぶ。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>いろいろな現象が常微分方程式で書き表せることを理解し、様々な常微分方程式の解法を学ぶ。GNU Octave あるいは Matlab による常微分方程式の数値解法を学び、解のグラフを描く。</p>			
授業計画			
<p>毎回コンピュータによる演習を含むので、GNU Octave の動く PC を持ってくること。</p> <p>第1回：常微分方程式とモデル I（人口推移のモデルなど）</p> <p>第2回：常微分方程式とモデル II（運動方程式など）</p> <p>第3回：変数分離の解法</p> <p>第4回：1階線形常微分方程式の解法</p> <p>第5回：定数係数2階線形同次方程式の解法</p> <p>第6回：定数係数2階線形非同次方程式の解法</p> <p>第7回：変数係数2階線形非同次方程式の解法</p> <p>第8回：変数係数2階線形非同次方程式の解法演習</p> <p>第9回：ラプラス変換とその性質</p> <p>第10回：逆ラプラス変換</p> <p>第11回：ラプラス変換と定数係数線形常微分方程式の初期値問題</p> <p>第12回：線形微分方程式系について</p> <p>第13回：線形微分方程式系の解法</p> <p>第14回：線形微分方程式系の応用</p> <p>第15回：まとめ</p>			
テキスト			
<p>Moodle 上にテキスト・問題・プログラム例などを適宜、提示する。</p> <p>J. David Logan, A First Course in Differential Equations, Third Edition, Springer, 2015.</p>			
参考書・参考資料等			
田代嘉宏、ラプラス変換とフーリエ解析概論、第2版、森北出版、2004。			

金子晃、微分方程式講義、サイエンス社、2014。

学生に対する評価

毎回のレポート課題により成績をつける（100%）

授業科目名： 計算機科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：望月久稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>計算機の根幹をなすデジタル情報や論理の体系を理解する。また、計算機の仕組みをハードウェアとソフトウェアの面から理解する。ハードウェアの基礎として、論理回路の構成法について理解し、計算機を構成する各種装置の基本動作と内部構成について理解する。ソフトウェアの基礎として、アセンブリ言語プログラミングの修得を通して、計算機の動作を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>計算機内部で使用されるデジタル情報の体系や論理回路の解析法と設計手法について解説する。また、CPUを中心とした計算機の構成と動作についてアセンブリ言語を活用しながら解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要，文献紹介，成績評価等）</p> <p>第2回：デジタル情報体系</p> <p>第3回：論理代数</p> <p>第4回：基本論理回路，論理式の導出法と簡略化法</p> <p>第5回：組み合わせ論理回路</p> <p>第6回：順序論理回路</p> <p>第7回：計算機の構成と基本動作</p> <p>第8回：各種装置の構成と設計</p> <p>第9回：基本ソフトウェア：OSやコンパイラ等の概要</p> <p>第10回：計算機の命令セット</p> <p>第11回：アセンブリ言語1：記憶装置の制御</p> <p>第12回：アセンブリ言語2：算術論理演算</p> <p>第13回：アセンブリ言語3：制御構造の仕組み</p> <p>第14回：アセンブリ言語4：スタック操作とサブルーチン</p> <p>第15回：アセンブリプログラミング演習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ディジタル情報回路（清水賢資著，森北出版）</p>			

アセンブリ言語CASLII（東田幸樹他著，工学図書）

学生に対する評価

定期試験（80％），レポート（20％）

授業科目名： プログラミングとグ ループワークI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：望月久稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ソフトウェアプログラミングを修得することにより，コンピュータの本質を理解すると共にコンピュータを自由自在に使いこなすことができる。コンピュータのソフトウェアに関する講義で学んだ知識をより深く理解することができる。プログラミングを理解することにより，その考え方や技法を一般のソフトウェア設計に役立たせることができる。さまざまな応用分野に関する関心を広げ，コンピュータを利用する意識を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>プログラムの考え方，構造について説明する。 プログラム言語Cをとりあげ，関連するプログラミング上の各種技法を紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要，文献紹介，成績評価等） 第2回：Linuxオペレーティングシステム，ファイル構造とコマンド 第3回：プログラムの作成方法 第4回：文字列入力と数値入力 第5回：演算子 第6回：コンソール入出力 第7回：分岐構造：if 第8回：反復構造：for，while 第9回：その他の制御構造：do-while，switch，breakなど 第10回：配列とデータ型 第11回：関数の基本形 第12回：ローカル変数とグローバル変数 第13回：ポインタの基礎 第14回：ポインタの応用 第15回：応用プログラム</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>C実践プログラミング，Steve Ovalline著，O'REILLY</p>			

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出する成果物（50%），レポート（50%）

授業科目名： プログラミングとグ ループワークII	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：望月久稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ソフトウェアプログラミングを修得することにより，コンピュータの本質を理解すると共にコンピュータを自由自在に使いこなすことができる。コンピュータのソフトウェアに関する講義で学んだ知識をより深く理解することができる。プログラミングを理解することにより，その考え方や技法を一般のソフトウェア設計に役立たせることができる。さまざまな応用分野に関する関心を広げ，コンピュータを利用する意識を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>プログラムの考え方，構造について説明する。 プログラム言語Cをとりあげ，関連するプログラミング上の各種技法を紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要，文献紹介，成績評価等） 第2回：プログラム開発環境 第3回：コンパイラ言語の実行プロセス，簡単なプログラム 第4回：基本データ型の応用 第5回：各種演算子の活用 第6回：制御構造の活用とアルゴリズム 第7回：配列と応用 第8回：メモリ参照法 第9回：構造体によるデータ構造設計 第10回：関数と簡単なアルゴリズムの実現 第11回：プログラムの設計 第12回：入出力とライブラリ関数 第13回：メモリ管理 第14回：デバイス制御の基本：ファイル管理 第15回：応用プログラム</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>C実践プログラミング，Steve Ovalline著，O'REILLY</p>			

コンピュータアルゴリズム，津田和彦他著，共立出版

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出する成果物（50%），レポート（50%）

授業科目名： プログラム言語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：望月久稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>プログラムの基本的な事項について理解する。プログラムを設計することにより、計算機を利用して問題を解く本質を理解する。プログラムの仕組みを理解することにより、その考え方や技法を一般のソフトウェア設計に役立たせることができる。さまざまな応用分野に関する関心を広げ、計算機を利用する意識を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>プログラムの考え方、構造、理論的な側面について説明する。 プログラム言語Cをとりあげ、その文法を詳述し、関連するプログラミング上の各種技法を紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要、文献紹介、成績評価等） 第2回：プログラムの考え方と書き方 第3回：基本データ型とメモリとの関係 第4回：記憶クラス 第5回：各種演算子による計算 第6回：アルゴリズムの基本的構造表現法と制御構造 第7回：配列と応用、可変長・固定長サイズの管理 第8回：メモリ参照法 第9回：構造体によるデータ構造設計 第10回：関数とプログラムの設計 第11回：プリプロセッサ 第12回：入出力とライブラリ関数 第13回：メモリ管理 第14回：デバイス制御の基本：ファイル管理 第15回：応用プログラムの設計</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>C実践プログラミング, Steve Ovalline著, O'REILLY</p>			

コンピュータアルゴリズム，津田和彦他著，共立出版

学生に対する評価

定期試験（80％），レポート（20％）

授業科目名： システムソフトウェア	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：望月久稔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>システムソフトウェアの一つであるコンパイラをテーマにプログラムを生成する過程を理解する。コンパイラを構成する理論として、言語理論によりプログラム言語の生成法を理解し、オートマトン理論により計算機のモデルを理解する。言語理論とオートマトン理論を理解することにより、その考え方や技法を一般のソフトウェア設計に役立たせることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>コンパイラとは、高級言語で書かれたプログラムを機械語プログラムに変換するプログラミング言語の処理系であり、OSと共にシステムソフトウェアの中心をなし、応用範囲が広い。その技法について解説する。理論として言語理論とオートマトン理論を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要，文献紹介，成績評価等）</p> <p>第2回：プログラム言語とコンパイラ概説</p> <p>第3回：言語理論概説：形式文法と形式言語</p> <p>第4回：オートマトン理論概説：各種オートマトンと計算量</p> <p>第5回：字句解析</p> <p>第6回：正規文法と正規言語</p> <p>第7回：有限オートマトン</p> <p>第8回：構文解析</p> <p>第9回：文脈自由文法と文脈自由言語</p> <p>第10回：プッシュダウンオートマトン</p> <p>第11回：記号表のデータ構造とアルゴリズム</p> <p>第12回：各種中間言語</p> <p>第13回：コードの最適化と生成</p> <p>第14回：各種ツール：字句解析器と構文解析器</p> <p>第15回：まとめと応用課題としての設計</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

オートマトン・言語理論の基礎，米田政明他著，近代科学社

コンパイラ，中田育男，産業図書

コンパイラI 原理・技法・ツール，A. V. Aho他著，サイエンス社

学生に対する評価

定期試験（80%），レポート（20%）

授業科目名： データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 望月久稔
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>データ構造とアルゴリズムの基本的な事項について理解する。データ構造とアルゴリズムを設計することにより、計算機を利用して問題を解く本質を理解する。問題解決に際し、適切なデータ構造とアルゴリズムを選択・設計でき、プログラムとして実現できる。さまざまな応用分野に関する関心を広げ、計算機を効率的に利用する意識を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>計算機科学の基礎であり、より進んだ科目の前提となるデータ構造とアルゴリズムの考え方について説明する。最も基本的で重要なデータ構造とアルゴリズムを取り上げ、その実現法、性質と具体的な計算量の解析、応用例等を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要、文献紹介、成績評価等）</p> <p>第2回：データ構造の基本概念、データ構造とアルゴリズム、計算量</p> <p>第3回：基本データ型：数値、文字等の基本型、メモリとの関係</p> <p>第4回：配列、構造体の管理</p> <p>第5回：各種リスト構造</p> <p>第6回：スタック、キュー</p> <p>第7回：配列とリストを基本とするアルゴリズム</p> <p>第8回：配列を応用したアルゴリズム</p> <p>第9回：グラフ</p> <p>第10回：各種木構造</p> <p>第11回：2分木</p> <p>第12回：木を利用したアルゴリズム</p> <p>第13回：集合操作を利用したアルゴリズム</p> <p>第14回：集合の高度な表現方法を利用したアルゴリズム</p> <p>第15回：データ構造とアルゴリズムの解析法と設計法</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>コンピュータアルゴリズム，津田和彦他著，共立出版</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（80％），レポート（20％）

授業科目名： ロボット教材とプログラミングA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 守本 晃 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>レゴマインドストームev3 を用いた、ロボットプログラミングの基礎を学ぶ。 レゴブロックの組み立てができる。 各種センサーの理解と使用方法がわかる。 モーターの制御ができる。 簡単なブロックプログラミングができる。 Sphero が使える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>レゴマインドストームev3 を用いて、ロボットプログラミングの基礎を学習する。 パーツの確認、プログラミングツールのダウンロード。 センサーからの情報の見方、モーターの制御のやり方。 フロー制御のやり方を学び。 車を作成して、思い通りに動くことを学習する。 Sphero について、学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ソフトウェアのインストール・パーツの確認 第2回：センサー・モーターについて、プログラミング時の注意 第3回：車の組み立て 第4回：車の組み立て、暇な人はコアセットのサンプルを作ってみる 第5回：最終レポート課題は、何か題目を決めて、 ・小・中・高の教科の何かを理解させる ・こういうことを考えさせる教材 プログラミング教材を作成してみてください。 最終レポート課題に取り組む。 第6回：車の制御など最終レポート課題に取り組む。 第7回：走行テストなど最終レポート課題に取り組む。 第8回：振り返り、パーツ確認とアンケートなど</p>			
テキスト			

適宜、Moodle 上に資料を提示する。

参考書・参考資料等

適宜、Moodle 上に資料を提示する。

学生に対する評価

二人一組でレゴの組み立てやプログラミング作成をしてもらい、

毎回、組み立て時や実験時に作業報告を書く。

作業報告や最終レポート課題の結果などを元に、成績をつける。(100%)

授業科目名： ロボット教材とプログラミングB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 守本 晃 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高一種免（情報））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 小学生や中学生にたいするプログラミング教育の教材として、 レゴマインドストームev3 や Sphero を活用するにはどうしたらよいかを考えよう。 ロボット教材とプログラミング A で学習したことを活用して、 指導案を作ってみよう			
授業の概要 レゴマインドストームev3 や Sphero などを用いて、ロボットプログラミング教育を考える。 小中学生にたいするプログラミング学習の指導案を考察しよう。			
第1回：オリエンテーション・グループ分け・ソフトのインストールなど 第2回：プログラミング教育の題材考察とロボット制作 I 第3回：プログラミング教育の題材考察とロボット制作 II 第4回：自作ロボットとそれを使った指導案を考察 I 第5回：自作ロボットとそれを使った指導案を考察 II 第6回：発表して、相互評価 第7回：評価に基づき、教材を修正 第8回：再発表ならびに再評価とディスカッション			
テキスト 適宜配布するか、Moodle 上に資料を載せる。			
参考書・参考資料等 適宜配布するか、Moodle 上に資料を載せる。			
学生に対する評価 二人一組でレゴの組み立てや Sphero プログラミング作成をしてもらい、 毎回、組み立て時や実験時に作業報告を書く。 指導案の作成と発表スライド作成。 模擬授業の発表とルーブリックによる相互評価を行う。 これらを総合して、成績を評価する（100%）。			

授業科目名： データサイエンスI	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：守本 晃 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. データの収集・加工・処理、データの分析、分析結果の解釈とその活用というデータサイエンスの3要素について基本的な技術を身につけること。</p> <p>2. データサイエンスの応用事例について理解すること。</p>			
授業の概要			
<p>データから価値を生み出すデータサイエンスの重要性は、近年、非常に大きくなってきている。その背景には、ユビキタス・IoTなどの技術の進歩に伴うデータ収集のコストの低下や、通信回線、コンピュータの性能の向上など、大量のデータを収集、保持、分析できる技術の発展がある。この授業では、データの収集・加工・処理、データの分析、分析結果の解釈とその活用というデータサイエンスにおいて重要な3要素について学ぶ。様々な分野における応用事例についても紹介する。</p>			
授業計画			
第1回：データサイエンスの概要、ガイダンス			
第2回：データサイエンスの役割、データ分析の方法			
第3回：データサイエンスの画像・音声処理技術			
第4回：ヒストグラム、箱ひげ図、平均・分散・標準偏差			
第5回：散布図、相関係数			
第6回：回帰直線			
第7回：データ分析で注意すべき点			
第8回：EXCELを用いたデータ集計			
第9回：Rのインストールと組み込みのデータを用いた分析例			
第10回：Pythonのインストールとライブラリを使った分析例			
第11回：応用事例（金融・保険）			
第12回：応用事例（市場調査）			
第13回：応用事例（医学・品質管理）			
第14回：応用事例（テキストマイニング）			
第15回：まとめ			
テキスト			
竹村彰通, 姫野哲人, 高田聖治 編「データサイエンス入門」学術図書出版社			
参考書・参考資料等			

滋賀大学データサイエンス学部・長崎大学情報データ化学部 共編「データサイエンスの歩き方」 学術図書出版社

Moocオンライン講座「大学生のためのデータサイエンス I」

学生に対する評価

講義中に出題する小テスト課題により成績を評価する。講義時間内での提出を基本とするため、パソコンなどを持ち込んで講義に臨むことが望ましい。期末試験や最終レポートなどは課さない。

授業科目名： データサイエンスⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：守本 晃 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 データサイエンスにおける一連の流れを理解し、それらを行う上で必要なスキルを身に着けることを目標とする			
授業の概要 現場の実データをもとに、データサイエンスにおける「計画→データ収集・加工・分析→分析結果の確認→結果の解釈・問題解決策の提案（価値創造）」をグループで実際に体験することで、コミュニケーションの必要性、自らの考えを相手に伝える表現力、問題解決策の提案力を育成する。また、課題を自ら発見することの重要性について確認し、価値創造につなげる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：Rによるデータ処理1 第3回：Rによるデータ処理2 第4回：グループワーク1 第5回：グループワーク2 第6回：グループワーク3 第7回：グループワーク4 第8回：発表と討論 第9回：Pythonによるデータ処理1 第10回：Pythonによるデータ処理2 第11回：グループワーク5 第12回：グループワーク6 第13回：グループワーク7 第14回：グループワーク8 第15回：発表と討論			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 有賀友紀、大橋俊介 著「RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&機械学習」技術評論社 北川源四郎、竹村彰通 編「教養としてのデータサイエンス」講談社 Moocオンライン講座「大学生のためのデータサイエンス（Ⅱ）機械学習編」			

Moocオンライン講座「大学生のためのデータサイエンス（Ⅲ）問題解決編」

学生に対する評価

以下の2点を評価する：

・所属するグループが扱うデータについて、グループ内で協力することで適切にデータ分析作業が実施できていること。

・自らの考えを相手に伝える表現力、問題解決策の提案力が身についていること。

グループワークで提出するレポート内容（80%）と発表と討論（20%）を評価基準とする。

授業科目名： 情報理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：守本 晃 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>シャノンの構築した情報理論の基礎を学習する。コンピュータで扱えるのは、2進数(0, 1)の有限長数列である。一方、人間は文章、画像、音声、動画等の処理をしたい。文章などを2進数列に変換することを「符号化」とよび、2進数列を文書などに戻すことを「復号化」とよぶ。符号化した2進数列を電線・電波・赤外線などで通信する。なるべく短い2進数列に変えることや通信エラーに強い数列にすることが必要である。</p> <p>これらを研究する分野を情報理論とよぶ。</p> <p>授業では、情報理論の基礎である「情報量の性質」「情報源」「情報源符号化」「通信路モデル」「通信路符号化」「誤り訂正符号」について学習する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>最初に、条件付き確率の復習、上に凸な関数の性質についての復習を行う。</p> <p>次に、エントロピー・相互情報量・ダイバージェンスなどの情報量について学習する。</p> <p>情報源モデルと情報源符号化について学習する。</p> <p>通信路のモデルと通信路符号化定理について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イントロ 情報理論とは</p> <p>第2回 条件付き確率などの復習</p> <p>第3回 上に凸な関数とイェンゼンの不等式</p> <p>第4回 エントロピー・相互情報量・ダイバージェンスなどの情報量の定義</p> <p>第5回 情報量の性質 I</p> <p>第6回 対数和不等式と情報量の性質 II</p> <p>第7回 情報源モデル</p> <p>第8回 情報源符号化 I</p> <p>第9回 情報源符号化 II</p> <p>第10回 シャノン・ファノ符号とハフマン符号</p> <p>第11回 通信路モデル</p> <p>第12回 通信路容量</p> <p>第13回 通信路符号化定理</p> <p>第14回 誤り訂正符号</p> <p>第15回 各種符号と振り返り</p>			

テキスト

Moodle 上で適宜提示する。

参考書・参考資料等

植松 友彦, イラストで学ぶ 情報理論の考え方, 講談社, 2012.

平田 廣則, 情報理論のエッセンス(改訂2版), オーム社, 2020.

今井 秀樹, 情報理論 改訂2版, オーム社, 2019.

小沢 一雅, 情報理論の基礎(第2版), オーム社, 2019.

学生に対する評価

毎回の授業終了時にレポート課題を課す。(100%)

授業科目名： ソフトウェア設計・ 開発	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西出 亮 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ソフトウェア開発における要求分析からデザイン・テスト・運用までの手順を理解し、関連する技法やモデルについて学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>よいソフトウェアとはどのようなものか、いかにしてよいソフトウェアを開発するか、ソフトウェアの運用と保守はどうするかなど、ソフトウェア設計・開発に関する問題点は多い。この問題に取り組むための基礎知識や考え方、ソフトウェア開発プロセスについて学ぶ。また、構造化技法やオブジェクト指向に基づく分析・設計・プログラミング技法、UML、ソフトウェア評価手法、コストモデル、形式手法、検証技術等について紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ソフトウェア設計・開発の歴史と概要</p> <p>第2回：開発プロセス（ライフサイクル、ウォーターフォール、進化型、アジャイル）</p> <p>第3回：要求分析（開発計画、要求分析・獲得、仕様化）</p> <p>第4回：設計（アーキテクチャ設計、モジュール設計）</p> <p>第5回：プログラミング（構造化プログラミング、コーディング技術）</p> <p>第6回：ソフトウェアテスト（テスト工程、テスト技法）</p> <p>第7回：運用・保守（運用・保守の特徴、保守技法、再利用技法）</p> <p>第8回：構造化技法（構造化技法・分析・設計）</p> <p>第9回：オブジェクト指向1（基礎概念）</p> <p>第10回：オブジェクト指向2（方法論、ユースケース）</p> <p>第11回：モデル化技法1（データの流れ・構造・制御の流れモデル、状態遷移モデル）</p> <p>第12回：モデル化技法2（協調モデル、モデル化の例）</p> <p>第13回：形式手法と検証（形式技法・検証の例）</p> <p>第14回：検証技術とモデル検査（モデル、検査式、検証ツール）</p> <p>第15回：ソフトウェア評価（評価基準、コストモデル、プロジェクト管理）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

高橋直久、丸山勝彦「情報工学レクチャーシリーズ：ソフトウェア工学」森北出版  
鶴保征城、駒谷昇一「ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの授業1」SE Shoei  
sha

玉井哲雄「ソフトウェア工学の基礎」岩波書店

学生に対する評価

授業内課題（40%）と期末試験（60%）で成績を評価する

授業科目名： データベース演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西出 亮 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 ・データベースの基礎理解 ・データベースの構築と操作のためのSQLによるデータ操作の実践的理解			
授業の概要 データ分析の対象となるデータセットを作成するためには、まず、データを収集・編集して適切にデータベースで統合管理する知識とスキルが求められる。そのデータベースから分析に応じたデータセットを加工・抽出するデータベース操作の知識とスキルが求められる。 本講義では、データベースの基礎知識、データベースの設計と構築、関係代数とSQL、SQLによるデータ操作などを学ぶ。演習では、広く利用されているMySQLを用いて簡易な書籍管理システムの開発を計画している。多次元データやオブジェクト指向データベース、ネット上のデータのXML表現、そしてP2P型データベースといったデータベースの応用技術も紹介する。第1回～7回は講義、第8回～15回は演習となっている。			
授業計画 第1回：コンピュータの基本（ハードウェアとオペレーティングシステムの仕組み、情報表現） 第2回：データ管理とファイルシステム 第3回：データベースシステム①（データモデルの概要、リレーショナルモデルと制約） 第4回：データベースシステム②（データベース管理システムの基本機能とSQL） 第5回：SQLによる基本操作（CREATE、INSERT、UPDATE、DELETE、SELECTなど） 第6回：データベースの応用①（多次元データ、オブジェクト指向データベース） 第7回：データベースの応用②（データベースとWeb、XML表現、P2P型データベース） 第8回：演習環境の構築（Tomcatのインストール、HTML作成、HTTPの理解） 第9回：サーバサイドプログラムの実装（Servlet、JSPによる簡単なWebアプリケーションの作成） 第10回：JDBCによるデータベース利用（MySQLのインストール、データベースの作成） 第11回：クライアントサイドプログラムの実装（JavaScriptによるブラウザ上での処理） 第12回：書籍管理システムの開発：書籍の検索・表示（HTMLフォーム、テーブル表示） 第13回：書籍管理システムの開発：書籍の追加・変更・削除（データ挿入・更新・削除） 第14回：書籍管理システムの開発：発展的機能の追加（例外処理の追加、ユーザビリティの向上） 第15回：まとめ			
テキスト 増永良文「データベース入門」サイエンス社			

増永良文「リレーショナルデータベース入門：データモデル・SQL・管理システム・NoSQL」  
サイエンス社

配布資料等

参考書・参考資料等

速水治夫、宮崎収兄、山崎晴明「データベース」オーム社

上島紳一、上田真由美「データベース—活用のための基礎知識」昭晃堂

学生に対する評価

出席状況（25%）、小テスト（25%）、演習課題（50%）による評価

授業科目名：情報通信 ネットワークI	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三島和宏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. OSI参照モデルとTCP/IP階層モデルの対応関係及び各階層の機能について説明できる</p> <p>2. 基本的なパケット通信や仕組みについて説明できる</p> <p>3. ネットワーク管理に利用されるプロトコルやネットワークを構成する上での機器について説明できる</p>			
授業の概要			
<p>本科目では、コンピュータをはじめとする情報通信機器がネットワークを介して通信する仕組みを基礎から学ぶ。具体的に、プロトコルの階層構造や各階層の原理や特徴的な機能に加え、各階層における主要なプロトコルの仕組みを学ぶ。本科目を通して、情報通信ネットワークの動作原理を理解し、将来のネットワーク技術の発展に対応できる考え方を身につけることが目標である。</p>			
授業計画			
第1回： オリエンテーション			
第2回： ネットワークアーキテクチャ・概論，OSI参照モデルとTCP/IPモデル			
第3回： ネットワークアーキテクチャ・階層モデル			
第4回： Webアクセス（HTTP，HTTPS）			
第5回： 電子メール（SMTP，POP，IMAP）			
第6回： DNS			
第7回： 遠隔アクセスとファイル転送（TELNET，SSH，FTP）			
第8回： TCPとUDP			
第9回： IPの基礎			
第10回： IPv4とIPv6，NAT，CIDR			
第11回： 経路制御（AS，BGP）			
第12回： 無線通信（無線LAN，モバイル通信）			
第13回： ネットワーク管理（ICMP，SNMP）			
第14回： 情報セキュリティ対策（アクセス制御，ファイアウォール）			
第15回： 情報通信ネットワークのまとめ			
定期試験			
テキスト			
[改訂4版] TCP/IPネットワーク ステップアップラーニング（三輪賢一，技術評論社）			

参考書・参考資料等

マスタリングTCP/IP 入門編 第6版 (井上直也他著, オーム社)

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

小レポート (30%), 期末試験 (70%)

授業科目名： 情報通信ネットワーク I 演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三島和宏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. ネットワークの仕組みを理解し、実際にコマンドやツールを利用することができる</p> <p>2. 自由に情報通信ネットワークを用いたサブネットを運用すること、ルーティングプロトコルの動作を理解することができる</p> <p>3. 情報セキュリティ対策を意識したネットワークスイッチ及び情報通信ネットワークを運用することができる</p>			
授業の概要			
<p>本科目では、情報通信機器をネットワークに接続して利用する手順とネットワークそのものを構築しサービスを展開する方法について演習を通して学ぶことを目的とする。具体的に、仮想環境やクラウド技術を用いた演習環境にて小規模ネットワークの構築を行い、各種プロトコルやネットワークアプリケーションの動作を理解をする。</p>			
授業計画			
第1回： オリエンテーション			
第2回： SSHによるリモートアクセス方法，仮想環境の準備，演習環境の準備			
第3回： ネットワークの設定（NAT・ブリッジ・ゲートウェイ・ICMP）			
第4回： IPアドレスの設定，通信経路の調査			
第5回： サブネットマスクの役割			
第6回： ルータによるネットワーク構築			
第7回： ルータの基本的な操作方法			
第8回： ルータを用いたルーティング設定（1）			
第9回： ルータを用いたルーティング設定（2）			
第10回： ネットワークスイッチの基本的な操作方法			
第11回： ネットワークスイッチを用いたネットワーク分割			
第12回： ルータ・ネットワークスイッチにおけるネットワークのアクセス制御			
第13回： ファイアウォールによるセキュリティ設定			
第14回： ネットワーク構築におけるトラブルシューティング			
第15回： 情報通信ネットワーク演習のまとめ			
テキスト			
[改訂4版] TCP/IPネットワーク ステップアップラーニング（三輪賢一，技術評論社）			

参考書・参考資料等

マスタリングTCP/IP 入門編 第6版 (井上直也他著, オーム社)

基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティング入門 第3版 (村山 公保著, オーム社)

その他, 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

各講義で提示する課題 (50%), 期末レポート (50%)

授業科目名：情報通信 ネットワークⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三島和宏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ITインフラを支える諸技術を網羅的に理解し、これを活用できる</li> <li>2. インフラ運用に関する知識を習得し、それらを実際に構築し、運用を行うまでの一連の流れを把握した上でサービス運用を行うことができる</li> <li>3. インフラ技術とそれに関連するセキュリティ技術を理解し、社会の主軸となる情報通信ネットワークを守るための仕組みを説明できる</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、あらゆるものがつながる情報通信ネットワークにおけるさまざまなサービス展開を支える重要なITインフラ技術を演習を交えつつ学ぶことを目的とする。また、ITインフラに関わるセキュリティ技術についても取り扱う。数あるインフラ技術のうち、核となる技術の基本動作と運用に関する知識を網羅することにより、セキュリティを意識しながら一定のITインフラの構築運用を行える能力を身につけることが目標である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回： インフラ技術と設計、構築、運用技術</p> <p>第3回： DNSサーバの構築運用（1）</p> <p>第4回： DNSサーバの構築運用（2）</p> <p>第5回： NTPの基本知識とサービス構築運用</p> <p>第6回： データベースサーバの構築運用（1）</p> <p>第7回： データベースサーバの構築運用（2）</p> <p>第8回： サービス運用技術（サーバ・コンテナ・クラウド）とストレージ技術の基本知識</p> <p>第9回： コンテナ技術の基本知識</p> <p>第10回： コンテナ技術によるサービス構築運用</p> <p>第11回： クラウド技術の基本知識・クラウド技術によるサービス構築運用（1）</p> <p>第12回： クラウド技術によるサービス構築運用（2）</p> <p>第13回： インフラセキュリティ（1）</p> <p>第14回： インフラセキュリティ（2）</p> <p>第15回： 情報通信ネットワーク応用Iのまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>独自のテキストを用いる</p>			

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

マスタリングTCP/IP 入門編 第6版 (井上直也他著, オーム社)

基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティング入門 第3版 (村山 公保著, オーム社)

[改訂4版] TCP/IPネットワーク ステップアップラーニング (三輪賢一, 技術評論社)

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

各講義で提示する課題 (50%), 期末レポート (50%)

授業科目名： 情報通信ネットワークⅢ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三島和宏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 情報通信ネットワークで端末と端末が通信する仕組みを理解し、実際に端末間通信に必要なプロトコルと簡単なプログラミング技術を用いた端末間での通信ができる</p> <p>2. 端末間通信技術のうち、無線LAN技術を理解し実際に無線ネットワークを展開できる</p> <p>3. 端末間通信技術を用いたネットワークサービスのうち、Webに関連したサービスの展開手法を理解し、簡単なWebサービスを展開するためのシステムを展開できる</p>			
授業の概要			
<p>本科目では、情報通信ネットワークにおける端末間通信の基本的な仕組みを理解した上で、実際の物理システムにその仕組みを展開する方法について演習を交えつつ学ぶことを目的とする。実際に演習用ネットワーク機器や無線通信機器を用いて無線ネットワークを構築するとともに、その上で端末間通信を行うための機能を簡単なプログラミング技術を用いて実装し、実際の事例として簡単なWebサービスを展開する手法を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回： オリエンテーション			
第2回： 仮想環境の構築、演習環境の準備			
第3回： 演習環境の基本的な操作			
第4回： さまざまな通信技術（有線LAN・無線LAN・Bluetoothと近接通信・シリアル通信）			
第5回： 無線通信機器を用いた無線ネットワークの展開			
第6回： 演習環境を用いた無線ネットワークの展開			
第7回： ネットワークとプログラミング（1）			
第8回： ネットワークとプログラミング（2）			
第9回： 演習環境を用いたソケット通信			
第10回： 演習環境を用いた端末間通信（1）			
第11回： 演習環境を用いた端末間通信（2）			
第12回： WebサーバとWebサービス			
第13回： 演習環境を用いたWebサービスの展開			
第14回： Webサービスに対する情報セキュリティ対策			
第15回： 情報通信ネットワーク応用IIのまとめ			
テキスト			

独自のテキストを用いる

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

マスタリングTCP/IP 入門編 第6版 (井上直也他著, オーム社)

基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティング入門 第3版 (村山 公保著, オーム社)

[改訂4版] TCP/IPネットワーク ステップアップラーニング (三輪賢一, 技術評論社)

その他, 授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

各講義で提示する課題 (50%), 期末レポート (50%)

授業科目名： メディア表現とコミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本良太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションにおける様々なメディアの役割について理解するとともに、メディアを制作できるようになること</li> <li>・メディアは制作者によって意図的にデザインされていることを理解し、情報の受信者および発信者それぞれの立場ごとのメディアリテラシーを習得すること</li> <li>・扱うメディアごとに可能な表現を理解し意図を持った活用やコミュニケーションをデザインできるようになること</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、特にマルチメディア機器やソーシャルメディアおよび発信プラットフォーム、さらには新しいテクノロジーが普及し、メディアを扱うために必要なリテラシーが求められている。本授業では、コミュニケーションにおける様々なメディアの役割を学ぶとともに、その制作に必要な考え方を習得する。そのうえで、メディアを受信者および発信者として扱うために必要なメディアリテラシーの習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：メディアとコミュニケーションの関係</p> <p>第2回：メディア表現の基礎①</p> <p>第3回：メディア表現の基礎②</p> <p>第4回：メディアを用いたコミュニケーションのデザインプロセス①</p> <p>第5回：メディアを用いたコミュニケーションのデザインプロセス②</p> <p>第6回：メディアを用いたコミュニケーションのデザインプロセス③</p> <p>第7回：メディアコンテンツの制作①</p> <p>第8回：メディアコンテンツの制作②</p> <p>第9回：メディアコンテンツの制作③</p> <p>第10回：メディアリテラシー①</p> <p>第11回：メディアリテラシー②</p> <p>第12回：テクノロジーによって拡張された表現とコミュニケーション①</p> <p>第13回：テクノロジーによって拡張された表現とコミュニケーション②</p> <p>第14回：メディアの応用</p> <p>第15回：まとめ、メディア表現とコミュニケーションに関するレポート作成</p>			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・久保田賢一、岩崎千晶、中橋雄 2008年 「映像メディアのつくり方：情報発信者のための制作ワークブック」 北大路書房
- ・中橋雄 2017年 「メディア・リテラシー教育：ソーシャルメディア時代の実践と学び」 北樹出版
- ・久保田賢一、今野貴之 2018年 「主体的・対話的で深い学びの環境とICT：アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成」 東信堂

学生に対する評価

以下を総合的に評価する。

- ・ 単元ごとの小レポート 50%
- ・ メディア制作課題 30%
- ・ メディア表現とコミュニケーションに関するレポート 20%

授業科目名： マルチメディア教材開発	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本良太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学校におけるマルチメディア環境を理解し、実現および実装可能なマルチメディア教材を学ぶこと</li> <li>・マルチメディア教材開発のフレームワークを理解し、活用して教材を設計できるようになること</li> <li>・マルチメディア教材開発を支える様々な道具を知り、また開発の体験を通じてコンテンツ制作に必要なスキルを習得すること</li> <li>・日々開発、更新されるテクノロジーやマルチメディア環境を活用し新しい教材開発を行う態度を形成すること</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教育においては、学習者の実態に応じた教材を開発し、提供することが求められる。本講義では、マルチメディア教材の開発を支えるソフトウェアやアプリケーション等の道具を用いて、グループで一つの教材開発を行う。特に教材開発の理論を学び、そのフレームワークに基づいた分析と設計、実装までを体験する。加えて、日々開発、更新されるテクノロジーやマルチメディア環境、それらを活用した新しいマルチメディア教材を学び、新しい教材開発やその活用に向かう態度を形成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：GIGAスクール構想等による現在の学校におけるマルチメディア環境</p> <p>第2回：マルチメディア教材作成を支える道具</p> <p>第3回：マルチメディア教材の活用事例①：活用意図による分類</p> <p>第4回：マルチメディア教材の活用事例②：活用状況による分類</p> <p>第5回：教材開発の理論</p> <p>第6回：学習者分析</p> <p>第7回：マルチメディア教材の設計</p> <p>第8回：マルチメディア教材の開発①：教材の設計</p> <p>第9回：マルチメディア教材の開発②：コンテンツの作成（1）</p> <p>第10回：マルチメディア教材の開発③：コンテンツの作成（2）</p> <p>第11回：マルチメディア教材の開発④：試行と中間評価</p> <p>第12回：マルチメディア教材の開発⑤：教材の改善</p>			

第13回：教材の発表と評価

第14回：テクノロジーに駆動された教材開発

第15回：まとめ、マルチメディア教材開発に関するレポート

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

- ・鄭仁星、鈴木克明、久保田賢一 2008年 「最適モデルによるインストラクショナルデザイン：ブレンド型eラーニングの効果的な手法」 東京電機大学出版局
- ・久保田賢一、今野貴之 2018年 「主体的・対話的で深い学びの環境とICT：アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成」 東信堂
- ・中橋雄 2023年 「学びが生まれる場の創造：教育方法・ICT活用論」 北樹出版

学生に対する評価

以下を総合的に評価する。

- ・マルチメディア教材の設計（学習者分析に基づいた教材設計かどうかを評価） 30%
- ・マルチメディア教材（設計に基づいた教材の質を評価） 40%
- ・マルチメディア教材開発に関するレポート 30%

授業科目名： マルチメディア技術と 教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本良太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的に活用可能な様々なマルチメディア技術および機器を理解し、利用できるようになること</li> <li>・学習観や学習理論を理解し、それらに基づいたマルチメディア技術および機器の活用ができるようになること</li> <li>・マルチメディア技術の活用を可能にするための学習環境について理解すること</li> </ul>			
授業の概要			
<p>マルチメディア技術や機器は古くから教育利用されてきたが、具体的な活用では、その技術的な特徴に加え、学習観や学習理論に基づいて行われる必要がある。本授業では、教育利用可能な様々なマルチメディア技術や機器を紹介するとともに、それらをどのような学習観や学習理論に基づいて活用するのか、その応用方法についても学ぶ。具体的なマルチメディア技術・機器やその活用方法として、「映像メディア」「VR」「クラウド」「メタバース」「ゲーミフィケーション」などを取り上げる。さらに、利用だけでなく、制作を通じた新しい学習方法（プロジェクト学習など）とそこでのマルチメディア技術や機器の活用についても取り上げる。</p>			
授業計画			
第1回：マルチメディアと教育の関係			
第2回：学習観・学習理論に基づいたマルチメディアを教育利用する意図①			
第3回：学習観・学習理論に基づいたマルチメディアを教育利用する意図②			
第4回：マルチメディア技術や機器を活用する際の学習環境			
第5回：マルチメディアとその活用①（映像メディア①）			
第6回：マルチメディアとその活用②（映像メディア②）			
第7回：マルチメディアとその活用③（反転学習）			
第8回：マルチメディアとその活用④（ゲーミフィケーション）			
第9回：マルチメディアとその活用⑤（クラウド①）			
第10回：マルチメディアとその活用⑥（クラウド②）			
第11回：マルチメディアとその活用⑦（その他の事例）			
第12回：プロジェクト学習の理論			
第13回：プロジェクト学習におけるマルチメディア技術①（映像メディア）			
第14回：プロジェクト学習におけるマルチメディア技術②（クラウド）			

第15回：まとめ、マルチメディアの教育利用に関するレポート
-------------------------------

テキスト
------

なし
----

参考書・参考資料等
-----------

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・久保田賢一、今野貴之 2018年 「主体的・対話的で深い学びの環境とICT：アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成」 東信堂</li><li>・ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ 2015年 「反転学習：生徒の主体的参加への入り口」 オデッセイコミュニケーションズ</li><li>・稲垣忠、佐藤和紀 2021年 「ICT活用の理論と実践：DX時代の教師を目指して」 北大路書房</li></ul> |
|--|

学生に対する評価
----------

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・授業におけるグループディスカッションに基づいた小レポート 70%</li><li>・マルチメディアの教育利用に関するレポート 30%</li></ul> |
|---|

授業科目名： メディアデザイン演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本良太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像メディアの制作の基本的な撮影機器およびソフトウェアの操作技術を習得すること。</li> <li>・制作者が意図したメッセージを伝えるための効果的なメディア表現方法（映像撮影技法・映像編集技術）を習得すること。</li> <li>・映像メディアの企画および制作プロセスを通じてメディアリテラシーを習得すること。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>撮影機器や映像編集ソフトウェア、さらには映像配信プラットフォームが一般化することで、映像メディアの制作も容易になってきた。この授業では、実際の映像制作のプロセスを通じて、撮影機器や編集ソフトウェアの「操作技術」に加え、映像というメディアのデザインに必要な「映像撮影技法」および「映像素材の編集技術」という3つの要素を中心に学ぶ。加えて、従来の映像の「受け手」から「送り手」という異なる立場の経験を通じて、メディアを批判的に読み解く能力である「メディアリテラシー」も習得する。</p> <p>授業では、2つの制作課題に取り組む。練習課題（第3回～第6回）は個人課題、応用課題（第8回～第14回）はグループ課題となる。</p>			
授業計画			
第1回：映像メディアの事例と制作のプロセス			
第2回：映像メディアの撮影技法			
第3回：映像メディア編集ソフトウェアの基本操作①（撮影）			
第4回：映像メディア編集ソフトウェアの基本操作②（編集（カット編集・テキスト））			
第5回：映像メディア編集ソフトウェアの基本操作③（編集（エフェクト・トランジション））			
第6回：映像メディア編集ソフトウェアの基本操作④（書き出し・上映）			
第7回：著作権、映像メディアの分析（メッセージとそれに対応した表現方法）			
第8回：映像メディアの制作①（メッセージ・視聴者の設定）			
第9回：映像メディアの制作②（絵コンテの作成）			
第10回：映像メディアの制作③（撮影Ⅰ）			
第11回：映像メディアの制作④（撮影Ⅱ）			
第12回：映像メディアの制作⑤（編集Ⅰ）			
第13回：映像メディアの制作⑥（編集Ⅲ）			
第14回：映像メディアの制作⑦（書き出し・上映）			
第15回：メディアリテラシー、メディアデザインに関するレポート、まとめ			

テキスト

講師が作成した映像撮影技法および編集技術に関するウェブ教材

参考書・参考資料等

久保田賢一・岩崎千晶・中橋雄 2008年 「映像メディアのつくり方：情報発信者のための制作ワークブック」 北大路書房

学生に対する評価

以下を総合的に評価する。

- ・練習課題（映像撮影技法および編集技術の習熟度を中心に評価） 30%
- ・応用課題（グループへの貢献、映像制作のプロセス、制作物の内容を評価） 50%
- ・メディアデザインに関するレポート 20%

授業科目名： 情報科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：尾崎拓郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報科という教科の意義・目標について理解できる</li> <li>2. 学習指導要領の内容について理解できる</li> <li>3. 教材開発と授業方法の基本を身につける</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本講義では、高等学校普通科「情報」及び専門教科「情報」の教育目標、内容を理解し、実際に授業を担当する状況に自らを置き、その指導方法について学ぶ。</p> <p>具体的内容として、学習指導要領をしっかりと読み解き、「情報」という教科の必要性の理解、小中学校での情報教育の現状把握などを行う。また、教材研究、学習指導案の作成方法の基礎的な能力を身につける。最終的に、情報科教員としての基礎的な授業実践力を身につけることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回： 情報科という教科の意義・目的・内容（1）—設置と必要性—			
第2回： 情報科という教科の意義・目的・内容（2）—情報化社会と教科「情報」のあり方—			
第3回： 情報科をめぐる議論と実践の変遷（1）—中学校技術分野との関係—			
第4回： 情報科をめぐる議論と実践の変遷（2）—小中学校での学びと系統性—			
第5回： 学習指導要領の目標・内容・方法の考察（1）—何をどのように学ばせるのか—			
第6回： 学習指導要領の目標・内容・方法の考察（2）—主体的に学ぶ環境とは—			
第7回： 情報科教育の優れた実践に学ぶ（1）—過去の学習指導案を振り返る—			
第8回： 情報科教育の優れた実践に学ぶ（2）—ベテラン教員の指導案の作成法—			
第9回： 情報科教育の優れた実践に学ぶ（3）—授業でのICT活用場面を中心に—			
第10回： 教材開発の着眼点と方法（1）—研究会からの学び—			
第11回： 教材開発の着眼点と方法（2）—学習に役立つ情報源収集—			
第12回： 学習指導案の作成と検討（1）—「導入・展開・まとめ」授業の流れを中心に—			
第13回： 学習指導案の作成と検討（2）—ICT活用を中心に—			
第14回： 学習指導案の作成と検討（3）—作成した指導案をもとにした模擬授業の実施—			
第15回： 情報科教育法 I のまとめと課題			
テキスト			
高等学校学習指導要領（平成30年告示，文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編（文部科学省，開隆堂）			

情報科教育法—これからの情報科教育—（鹿野利春，高橋参吉，西野和典編著，実教出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

小レポート（70%），作成した学習指導案の発表内容（30%）

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：若杉祥太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の目標を行動目標で表現することができる。</li> <li>・ 教育の目標の実現に適した授業を設計することができる。</li> <li>・ 教育の目標に対応した教育評価を行うことができる。</li> <li>・ 情報科教育のカリキュラムの設計と評価を行うことができる。</li> <li>・ 情報科教育の授業を実施するために必要な指導方略、指導方術を工夫することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>情報科の授業構成論または授業研究として位置付け、情報科の授業構成論、授業の分析や授業開発方法、指導案の作成方法などの検討及びその実践を通して、情報科の授業づくりや学習指導についての実践的力量的形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案作成、模擬授業（マイクロティーチング）、アクティブラーニングによる教育指導の実践力を培う。</p> <p>授業方法としては、昨今の教育事情を踏まえICTやLMS活用による授業、遠隔授業等を実施するなど、様々な授業技術の知識やスキルを体験的に学修しながら進める。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 情報教育の目標と内容、授業技術と授業設計①			
第2回：情報教育における授業設計(1) 授業技術と授業設計②、教育目標と教育評価			
第3回：情報教育における授業設計(2) 学習指導案の作成方法、様々な情報科授業			
第4回：情報教育における授業技術(1) 板書、机間巡視、立ち居振る舞い、授業形態			
第5回：情報教育における授業技術(2) 説明・指示・質問・発問			
第6回：情報教育における授業技術(3) 動的・静的な問題解決、合意形成、収斂・建設的相互作用			
第7回：ICT活用による授業技法(1) 視聴覚教材及び学習支援教材の活用（情報通信技術の活用）			
第8回：ICT活用による授業技法(2) ICT活用と学習環境の構築（情報通信技術の活用）			
第9回：マイクロティーチングと授業評価(1) 学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価			
第10回：マイクロティーチングと授業評価(2) 学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価			
第11回：マイクロティーチングと授業評価(3) 学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価			
第12回：マイクロティーチングと授業評価(4) 学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価			
第13回：マイクロティーチングと授業評価(5) 学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価			
第14回：マイクロティーチングと授業評価(6) 学習指導案作成と模擬授業、授業分析と評価			
第15回：学習の振り返りと今後の展望 模擬授業の総括評価と全体総括、今後の情報科教育の展望			

テキスト

- ・林 徳治・藤本 光司・若杉 祥太（編著）、アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ、ぎょうせい、2020年

参考書・参考資料等

- ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編、文部科学省

学生に対する評価

学習指導案の作成（25%）、改善された学習指導案の作成（25%）

マイクロティーチングの実施（25%）、マイクロティーチングの改善レポート（25%）

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 金光靖樹、小林将太
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教員として道徳教育を行うために必要な①道徳規範や道徳性発達、学習指導要領に関する基礎知識、②教材活用や発問づくり、学習指導案作成などに関する基本的な技能を習得するとともに、③他教員と協働して学校全体で道徳教育を進めていく上で必要な対人的能力などを向上させる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道徳の理論および道徳教育の歴史と方法を概説し、学習指導要領をふまえて学習指導案を作成させることで、道徳教育ならびに特別の教科 道徳に必要な基礎的知識と基本的技能を身につけさせる。講義内では適宜グループワークを行わせることで、協働性の向上も図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスと導入</p> <p>第2回：道徳とは何か</p> <p>第3回：道徳教育の歴史</p> <p>第4回：道徳教育における現代的課題</p> <p>第5回：道徳性の発達</p> <p>第6回：道徳教育における主体的、対話的で深い学びを促す多様な指導方法</p> <p>第7回：学習指導要領における道徳教育ならびに特別の教科 道徳</p> <p>第8回：道徳教育ならびに特別の教科 道徳の指導計画・学習指導案の作成方法</p> <p>第9回：道徳科の授業づくり（学習指導案の作成：教材研究）</p> <p>第10回：道徳科の授業づくり（学習指導案の作成：ねらい、学習指導過程）</p> <p>第11回：道徳科の授業づくり（学習指導案の作成：板書計画、評価）</p> <p>第12回：道徳科の授業づくり（学習指導案の解説）</p> <p>第13回：道徳科の授業づくり（模擬授業の実施）</p> <p>第14回：道徳科の授業づくり（模擬授業のふりかえり、講評）</p> <p>第15回：講義のまとめ、質疑応答</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料の配付等を行う。</p> <p>参考書・参考資料等</p>			

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年6月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

到達目標に掲げる事項について、学習指導案の作成を含む平常の取組み状況（60%）と試験（40%）の結果に基づき、総合的に評価する。

授業科目名： ダイバーシティと教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：藪田 直子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 多様性とその価値について基本的理念を理解し、社会的共生（包摂性）の基本的なありようを理解する。また教育の現場において、子どもたちがもつ多様な背景を正しく捉え、人びとの多様性を尊重しながら活動し、自身の教育実践を組み立てることができるようになる。			
授業の概要 本授業では、現代社会におけるダイバーシティ（多様性尊重）の基本的理念を概説する。多様性を認めあう共生社会の構成員としての教師の姿を想定しながら、受講者ひとりひとりの理解と体験を促す。また、ダイバーシティ教育がめざす、子どもの多様性および、社会的包摂（社会的共生）を重視する学校教育のあり方やその価値について、受講生とともに考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーションー現代社会におけるダイバーシティとは 第2回：日常・社会生活におけるダイバーシティ事象の省察 第3回：教育改革の動向とダイバーシティ教育 第4回：ダイバーシティ教育のために求められる教師の資質・能力 第5回：学校教育における多様性（1）地域と学校：大阪の学校における歴史と現在 第6回：学校教育における多様性（2）性の多様性と学校 第7回：社会的共生（包摂性）の可能性と展望 第8回：ダイバーシティとインクルージョンの教育ー総括とディスカッション			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 岩渕功一編著「多様性との対話-ダイバーシティ推進が見えなくするもの」青弓社、2021。 野口晃菜・喜多一馬編著「差別のないインクルーシブ教育-だれのことばにも同じだけ価値がある」学事出版、2022。 神村早織・森実編著「人権教育への招待-ダイバーシティの未来をひらく」解放出版、2019。			
学生に対する評価 レポート（25%×2回=50%）、授業内課題（40%）、授業での発表内容（10%）			

授業科目名： 現代社会と子どもの権利	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中真秀 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、ダイバーシティ時代における子どもの権利に関する社会的意義を理解し、子どもの権利の基本的な概念を身につけるとともに子どもの権利を成立させる諸要因を理解し、子どもが権利の主体として成長できるように促す意義について理解することである。</p> <p>到達目標は、以下の6点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの権利の本質を理解している。</li> <li>2) 子どもの権利を守る大人である教員・家庭・学校・社会の相互関係を理解している。</li> <li>3) ダイバーシティの時代における子どもの権利を守る規定について理解している。</li> <li>4) 子どもの命を守る学校としての役割を理解している。</li> <li>5) 子どもが権利の主体であることを理解している。</li> <li>6) 権利の主体者となるために何が必要なのかを説明できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、現代社会における子どもの権利について学ぶ。</p> <p>具体的には、子どもの権利の基本的概念は何か、また、子どもの権利にはどのようなものがあり、子どもの権利がどのように守られてきたのかを学ぶとともに、現代社会における子どもの権利がどのように捉えられてきたのかをふまえつつ概観を理解する。また、現代の学校における子どもたちの諸権利を理解する。さらには、子どもの権利(特に子どもの身体と心の安全を保障)を守る大人として、さらに権利の行使主体となる子どもの成長を促す大人として、子どもの心身を脅かす課題は何で、どのような方策があるのかについて考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 子どもを取り巻く環境、子どもの生活や学びについて — 子どもの権利とは何か</p> <p>第2回 子どもの学習権を保障するということはどういうことか (不登校・子どもの貧困・学習権の保障)</p> <p>第3回 学校における子どもの身体の安全を保障する(1) 身体の安全 (アレルギーや健康・学校安全(登下校・防災教育)・不審者対応、 子どもの「身体」を守る場面)</p> <p>第4回 学校における子どもの身体の安全を保障する(2) — 学校安全</p> <p>第5回 学校における子どもの心の安全を保障する(1) 心の安全</p>			

<p>(心のコンフリクト・差別・引きこもり)</p> <p>第6回 学校における子どもの心の安全を保障する(2) 個の尊厳を保障する</p> <p>第7回 子どもが学校や社会でどのように意見を表明できるのか (権利主体としての子ども) (意見表明権、子どもの学校参画 (コミュニティ・スクール) 、社会での意見表明)</p> <p>第8回 子どもの権利に対して、われわれはなにができるのか</p>
<p>テキスト</p> <p>幼稚園学習指導要領 (総則) (平成29年3月告示 文部科学省)、小学校学習指導要領 (総則) (平成29年3月告示 文部科学省)、中学校学習指導要領 (総則) (平成29年3月告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領 (総則) (平成30年3月告示 文部科学省)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業において、参考資料・参考文献を提示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業の際に課す小レポート (40%)</p> <p>授業中のワークおよび課題への取り組み状況 (30%)</p> <p>最終課題 (期末レポート) (30%) 。</p>

授業科目名： 多様な子どもとインクルーシブ教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平賀 健太郎 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 インクルーシブ教育の理念とは何かを理解し、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別かつ個別的支援を必要とする子どもと、障害のない子どもとが共に達成感をもちながら学ぶことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための知識や素養を身につける。			
授業の概要 インクルーシブ教育の理念とインクルーシブ教育に関する制度的事項の基礎を理解する。多様な子どもたちが在籍する通常の学級におけるインクルーシブ教育の取り組みを理解する。			
授業計画 第1回 インクルーシブ教育および、通常の学級における特別支援教育の概要 第2回 代表的な障害（発達障害）が在籍するクラスでのインクルーシブ教育の好事例 第3回 代表的な障害（弱視／難聴）が在籍するクラスでのインクルーシブ教育の好事例 第4回 代表的な障害（病弱・身体虚弱児等）が在籍するクラスでのインクルーシブ教育の好事例 第5回 障がいのある子どもとインクルーシブ教育の課題 第6回 特定分野に特異な才能のある幼児・児童・生徒とその対応 第7回 インクルーシブな学校文化の形成と学校づくり・学級づくり 第8回 インクルーシブ教育における学外関係者、および学内関係者との関係			
定期試験			
テキスト 各回のレジュメを準備します。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 毎回の講義のコミュニケーションカードの内容（50％）、試験（50％）			

授業科目名： 外国人の子どもの理 解と支援	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：臼井智美 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 日本語や日本文化以外の言語的・文化的背景をもつ幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、教職員や関係機関、保護者と連携しながら組織的に対応していくために必要な、基礎的な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 国籍や日本語力の程度を問わず、外国人児童生徒等やその保護者を取り巻く教育課題を取り上げ、指導や支援の政策動向や事例、指導関係者の役割や専門性、学校の役割を概説する。			
授業計画 第1回：外国人児童生徒等の多様性と在籍状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「外国人児童生徒等」とは誰のことを意味するのかを理解する。</li> <li>・外国人児童生徒等教育と在日外国人教育の違いを理解する。</li> <li>・「日本語指導が必要な児童生徒」の在籍状況とそこからわかる教育課題を理解する。</li> </ul> 第2回：外国人児童生徒等の言語的・文化的多様性と指導上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の国籍や母語の多様性、出身国と日本の教育制度の違いを理解する。</li> <li>・進路指導やキャリア教育の意義を理解する。</li> </ul> 第3回：外国人児童生徒等の教育課題と実態把握の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期や学齢期の教育課題の多様性を理解する。</li> <li>・子どもの実態把握の観点と方法を理解する。</li> </ul> 第4回：外国人児童生徒等に関する国・地方自治体の教育政策・施策の現状 第5回：外国人児童生徒等教育の種類と目的① 日本語・日本文化への適応の観点から <ul style="list-style-type: none"> <li>－初期適応指導(プレスクール/プレクラス)、日本語指導教室(拠点校型/通級型/巡回型)</li> </ul> 第6回：外国人児童生徒等教育の種類と目的② 自己実現の支援の観点から <ul style="list-style-type: none"> <li>－母語教室、国際教室、民族学級、夜間中学</li> </ul> 第7回：外国人児童生徒等教育における指導関係者の役割と専門性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任や教科担任の役割と専門性を理解する。</li> <li>・日本語指導担当教員の役割と専門性を理解する。</li> <li>・日本語指導補助者、母語支援員の役割と専門性を理解する。</li> <li>・その他の学外関係機関の役割と専門性を理解する。</li> </ul> 第8回：外国人保護者との信頼関係の構築			

- ・外国人保護者の抱える不安を理解する。
- ・外国人保護者に説明が必要な日本と外国の学校生活・行事等の相違点を理解する。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

臼井智美 『学級担任のための外国人児童生徒サポートマニュアル』 ISBN:978-4-18-096026-2

文部科学省 『外国人児童生徒受入れの手引き』

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm))

学生に対する評価

- ・毎回の授業で課すミニレポート (10%×8回)
- ・最終レポート (20%)

授業科目名: 教育データの活用 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1単位	担当教員名:小松孝至 担当形態:単独
科目	大学が独自に設定する科目(指定大学が加える科目)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 現在の学校教育でみられる,特に数量的なデータの活用について,データの収集と理解の基礎となる知識および基礎的なデータ分析の手法を習得する。また,データ活用の利点と留意点について適切な理解を持つ。これらにもとづいて,学校教育の現場において,子どもの力を最大限に引き出すことができる教育データの活用を理解し,それに基づく教育上の判断ができるようになることを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 学校教育において必要となるデータの活用,特に数量的なデータの収集,理解と分析の基礎について,学校で取り扱う学力調査を題材としながら解説するとともに,実際にデータを分析し,それをふまえた考察を実習する。データ収集にあたっての倫理的配慮や,妥当性・信頼性を具えた測度を用いることの重要性,数量データの分布の広がりとそれをふまえた個人差の把握,指標間の関連性を捉える方法などを取り扱う。			
<b>授業計画</b> 第1回:テストを分析する①(講義):小学校の学力調査(算数)を取りあげ,測定・評価の役割に関する基本的な概念を理解するとともに,データの収集にかかわる倫理的配慮を理解する 第2回:テストを分析する②(講義):小学校の学力調査(算数・国語)を取りあげ,測定・評価の信頼性・妥当性の概念を理解する 第3回:分布を記述する①(講義):分布の捉えかたと関連する指標を理解する 第4回:分布を記述する②(講義):分布の広がりを考慮した個人差の把握方法を理解する 第5回:分布を記述する③(実習):実際のデータを用いて分布の分析・記述について実習する 第6回:指標間の関連を理解する①(講義):2種類の数量データの分布から指標間の関連性を検討する方法を理解する 第7回:指標間の関連を理解する②(実習):実際のデータを用いて相関関係の分析,散布図を用いた個々の子どもの理解について実習する 第8回:まとめ・試験			
<b>テキスト</b> 授業中に必要な資料を配布する			
<b>参考書・参考資料等</b>			

心理統計学の基礎:統合的理解のために(南風原朝和著,有斐閣)  
よくわかる心理統計(山田剛史・村井潤一郎 著,ミネルヴァ書房)

学生に対する評価

毎回の講義での提出物等(60%),定期試験(40%)

授業科目名: 教育データの活用Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1単位	担当教員名:小松孝至 担当形態:単独
科目	大学が独自に設定する科目(指定大学が加える科目)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現在の学校教育でみられるデータの活用について,子どもの様々な側面を理解するための多様なデータ収集方法(調査法・検査法)とその意義を理解するとともに,推測統計の基礎を含むデータ分析の手法を習得する。これらの理解のもとで,学校教育の現場において,子どもの力を最大限に引き出すことができる,データをもとにした分析と省察を行うことができることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育において,子どもの様々な側面を理解するために利用可能な複数の測度について,それが測定しうる内容,実践的な活用,倫理的な配慮について解説する。また,少数データからの推論や,データに基づく予測などについて,推測統計の基礎的な考え方を含めて解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 子どもたちを理解し支援するためのデータ活用①(講義): 学級の子どもたちの状態やその経験を理解するためのデータ活用について理解する</p> <p>第2回 子どもたちを理解し支援するためのデータ活用②(講義): 子どもの社会情動的スキルを理解するためのデータ活用について理解する</p> <p>第3回 子どもたちを理解し支援するためのデータ活用③(講義): 子どもたちのことばの力を理解するためのデータ活用について理解する</p> <p>第4回 子どもたちを理解し支援するためのデータ活用④(講義): 特別な支援を必要とする子どもたちの理解のためのデータ活用について理解する</p> <p>第5回 多様な分析手法を知る①(講義): 母集団とデータの関係を理解し,統計的仮説検定の基礎について理解する</p> <p>第6回 多様な分析手法を知る②(講義): 統計的仮説検定の考え方をもとに,少数データからの推論や判断の留意点について理解する</p> <p>第7回 多様な分析手法を知る③(講義): 複数データ間について検討する方法を理解する</p> <p>第8回 多様な分析手法を知る④(講義): 複数データ間について検討する方法を理解する</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に必要な資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>心理統計学の基礎:統合的理解のために(南風原朝和著,有斐閣)</p>			

よくわかる心理統計(山田剛史・村井潤一郎 著, ミネルヴァ書房)

学生に対する評価

毎回の講義での課題・提出物等(100%)

授業科目名： 教科横断と探究学習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森本 和寿、鈴木 康文 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、具体的に探究のプロセスを経験し、教科等横断と探究学習を指導するための基礎的な構想力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせて横断的・総合的に学習することの意義やそこで育みたい能力について知り、教科内及び教科等を横断する探究的な単元づくり、授業づくりに関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 「教科内及び教科等を横断する探究（以下、探究）」について知る</p> <p>○探究学習の意義と原理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ「探究」が重要なのか、探究学習はどのような歴史的背景をもっているのかについて知る。</li> <li>・現在の探究学習は何を目標とし、どのような資質・能力を育成することを目指しているのかについて学ぶ（たとえばSTEAM教育実践を題材として）。</li> </ul> <p>第2回 探究学習の基礎（1）：さまざまな探究の方法</p> <p>○探究学習を基礎づける諸学問の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学、社会科学、人文学の研究方法に関する概要を学ぶことで、学問領域によって探究方法が異なることを知る。</li> <li>・具体的な探究学習の事例紹介を通して、自然科学、社会科学、人文学に基づく探究それぞれの特徴をおおまかに把握する。</li> </ul> <p>第3回 探究学習の基礎（2）：文献調査の方法</p> <p>○文献調査の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の基本となる文献調査の方法を学ぶ。探究のために必要な情報にアクセスするために、図書館やインターネット等を活用してどのように文献や資料を収集するのかを知る。</li> <li>・実践的に学ぶために、授業内で附属図書館に行ってみたり、Google ScholarやCinii等を用いて論文検索を行ってみたりする。</li> </ul>			

#### 第4回 教科における探究学習を知る

##### ○各教科内での探究

・教科内での探究学習について、具体的な事例を用いて学ぶ。伝統的な教科の教授法と比べて、教科内の探究学習がどのような点で異なり、どのような意義や役割、特徴をもつのかを知る。

#### 第5回 教科等横断の探究学習を知る

##### ○教科等を横断する探究

・教科等を横断する探究学習について、具体的な事例を用いて学ぶ。伝統的な教科の教授法や教科内の探究と比べて、教科等を横断する探究学習がどのような点で異なり、どのような意義や役割、特徴をもつのかを知る。

#### 第6回 実社会・実生活とつながる探究学習の実践例を知る

##### ○実社会・実生活とつながる探究学習の具体例

・探究学習の事例を用いて、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題等に基づく探究学習がどのようなものであり、またどのような意義をもつのかについて学ぶ。

・取り扱う事例としては、たとえば地域探究、グローバル探究、SDGs健康医療探究、防災探究、自然科学探究等に関するものが挙げられる。

#### 第7回 探究学習の評価

##### ○探究学習を評価する方法

・探究学習を評価するための観点や、具体的な方法（たとえば、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価、ルーブリックを用いた評価等）について学ぶ。

#### 第8回 まとめ 探究学習に関する小レポートの作成

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

適宜文献を紹介し、レジュメを配付する。

学生に対する評価

小レポート（100%）

授業科目名： ファシリテーターと しての教員 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：森本 和寿 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代においてファシリテーションが果たす意義や役割を理解し、教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学んだうえで、それを踏まえて具体的な教育活動においてファシリテーションを通じた有意義な議論の生成・展開ができるための実践的方法を知る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代においてファシリテーションが果たす意義や役割を理解し、教育ファシリテーションの理論的な背景、基礎に関する知識を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ファシリテーションとは何か</p> <p>○ファシリテーションの歴史と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ型学習の登場をはじめ、日本において「ファシリテーション」がどのように受容されてきたのかについて、その歴史的経緯を知る。</li> <li>・現代におけるファシリテーションの意義やファシリテーターに期待される役割を知り、従来の伝統的な教授法に対して、教育ファシリテーションがどのような意義や役割をもつのかについて学ぶ。</li> </ul> <p>第2回 協働的な場づくり (1) : 安心して参加できる学級づくり</p> <p>○安心して参加できる学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーションが機能するためには、子どもたちが自己肯定感（自尊感情）をもって、安心して議論に参加できる環境づくりが必要になる。学級での議論に安心して参加できる方法について、「仲間づくり」実践等の日本の学級づくりに関する理論的・実践的蓄積に学ぶ。</li> </ul> <p>○子どもの権利の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利条約や子ども基本法を踏まえ、子どもが意見を述べることの大切さ、特にファシリテーションにおいては子どもの意見表明権が保障されることが必要であることについて学ぶ。</li> </ul> <p>第3回 協働的な場づくり (2) : 差異を楽しむ学級づくり</p> <p>○学級集団とダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級は、さまざまな個性をもった子どもが集まるという点で多様性に富む集団である。多様</li> </ul>			

性のある集団がなぜ重要なのか、子どもたちの差異を生かした集団づくりをするにはどうしたらいいのかについて学ぶ。

#### ○討議づくり

・学級内において問題や課題を解決するためには、学級のメンバー同士の意見や価値観の差異に基づきながら、学級として一定の合意形成を行う必要がある。「討議づくり」実践等、日本の学級づくりに関する理論的・実践的蓄積の学習を通して、ファシリテーションを促す学級づくりについて学ぶ。

### 第4回 ファシリテーションの技法 (1) : 基本的な指導技術

#### ○教師の立ち振る舞いと指導言

・ファシリテーションは、教室における言語的・非言語的コミュニケーションに支えられている。教室空間において、教師の身体性がどのような影響をもち、教師はその身体的表現力をどのように発揮しうるのか、また、教師がファシリテーターとして機能するうえでの指導言（発問・助言・説明・指示）等の工夫の仕方について知る。

### 第5回 ファシリテーションの技法 (2) : 情報の提示と可視化

#### ○黒板・資料の提示方法を知る。

・ファシリテーションを活発なものとするために、黒板や資料を活用して、どのように情報を提示するかについて学ぶ。板書の方法や資料提示については教育方法や教材に関する研究の蓄積があるので、これに基づきながら効果的な情報提示の仕方を知る。

#### ○議論を可視化する技術

・教科の学習はもちろん、話し合い活動でも、その学習／話し合い過程をどのように提示するかはファシリテーションの成否を左右する。ホワイトボードミーティング、グラフィックファシリテーション、樹形図的思考整理法、KPT法等の具体的な手法を知り、さまざまなツールやICTを用いてファシリテーションの内容を可視化する方法について考える。

### 第6回 協働的に知を創出する技術 (1) : ファシリテーションのわざ

#### ○協働的に知を創出する技術について学ぶ

・ブレインストーミング、KJ法、ワールドカフェ、オープンスペース等、ファシリテーションに関する具体的な方法について学び、それぞれがどのような目的で、どのような場面において活用できるのかを知る。

### 第7回 ファシリテーションの実践

#### ○具体的なファシリテーションのデザイン

・グループごとに分かれて、マイクロティーチングの手法を用いて、ファシリテーション活動

を実際に行う。実際にファシリテーション活動に取り組んでみることで、その意義や実践上の課題を理解する。

第8回 ファシリテーターとしての教員に関する総括

・レポート執筆

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

適宜文献を紹介し、レジユメを配付する。

学生に対する評価

レポート（100%）

授業科目名： 学習者中心の授業デザインⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田茂孝 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（指定大学が加える科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教員による一方的な知識伝達型の教育ではなく、ダイバーシティ時代の学習者中心の授業へ向けた学習観・授業観の転換において、教えと学びの関係にはどのような構造と歴史的な変遷があり、現代までの教育から学習者中心の授業改善の原理について説明できる。			
授業の概要 本授業では、学習者中心の授業デザインの観点から、教育実践の歴史と原理を講ずるとともに、学習の目標・内容・方法から見た授業デザインの原理を検討し、具体的な授業のあり方を理解する。			
授業計画 第1回：学習者中心の授業の理念 第2回：学校における学習者中心の授業の教えと学びの関係の構造 第3回：学習者中心の授業を目指した教えと学びの歴史（西洋） 第4回：学習者中心の授業を目指した教えと学びの歴史（日本） 第5回：学習の目標から見た授業デザインの原理 第6回：学習の内容から見た授業デザインの原理 第7回：学習の方法から見た授業デザインの原理 第8回：総括 最終課題			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 適宜文献を紹介し、レジュメを配付する。			
学生に対する評価 授業への参加態度・毎回の課題提出（40％）、最終課題（60％）			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 棟形康平
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
憲法に関する基本的な考え方について理解すること。教育現場や社会における「憲法問題」について考えることができるようになること。			
授業の概要			
憲法に関する基本的な考え方について、憲法とはどのような法であるかというところから丁寧に説明する。その後、日本国憲法が保障する人権や統治の仕組みについて、裁判例や現実社会の動向等を例に挙げながら解説し、教育現場や社会で生じる「憲法問題」について考えるための視点を提供する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション・法学の基礎：講義の進め方や指定テキストの使い方、成績評価などについて説明する。また、これから憲法を学習していく上で前提となる法学の基礎（条文の読み方や判例の読み方など）について説明する。（テキストAppendix1）			
第2回：憲法とは何か：憲法と法律の違いなど、憲法がどのような法であるのか説明する。また、憲法改正や立憲主義という考え方についても説明する。（テキスト第1章・第18章Ⅰ・第30章）			
第3回：違憲審査制：違憲審査制の仕組みや問題点などについて説明する。（テキスト第24章Ⅱ）			
第4回：国民主権と天皇制：国民主権や天皇制のあり方について説明する。（テキスト第18章Ⅲ・第27章）			
第5回：平和主義：日本国憲法が採る平和主義の考え方や憲法9条の解釈について説明する。（テキスト第28章）			
第6回：人権総論：人権の意義やその適用・保障範囲（私人間効力論や子どもの人権など）について説明する。（テキスト第2章）			
第7回：幸福追求権：プライバシー権など現代社会で問題となる「新しい人権」について説明する。（テキスト第3章）			
第8回：法の下での平等：現代社会で生じている平等問題について説明する。（テキスト第4章）			
第9回：思想・良心の自由と信教の自由：思想・良心の自由、信教の自由を保障することの意義ととりわけ教育現場で生じている問題について説明する。（テキスト第5章・第6章）			
第10回：表現の自由：表現の自由の価値や表現の自由とマス・メディアとの関係性などについて説明する。（テキスト第7章・第8章）			

第11回：学問の自由と教育を受ける権利：教師の教育の自由や教育を受ける権利について説明する。  
。（テキスト第10章・第14章）

第12回：権力分立・民主主義：権力分立の意義や民主主義をめぐる諸問題について扱う。  
。（テキスト第18章）

第13回：国会：国会の権能や二院制の問題点等について説明する。  
。（テキスト第19章・第20章）

第14回：内閣：内閣の役割や議院内閣制について説明する。  
。（テキスト第21章・第22章）

第15回：裁判所：裁判の仕組みや裁判官の身分保障について説明する。  
。（テキスト第23章）

#### 定期試験

※各回の授業前には前回の復習（ノートの見直しやテキストの該当箇所を読む等）をしておく  
ことが求められる。

#### テキスト

斎藤一久・堀口悟郎編『図録日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）

#### 参考書・参考資料等

内山奈月・南野森『憲法主義——条文には書かれていない本質』（PHP研究所、2014年）

西原博史・斎藤一久編『教職課程のための憲法入門〔第2版〕』（弘文堂、2019年）

#### 学生に対する評価

小テスト（30%）・期末試験（70%）

授業科目名： スポーツ実技 a	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 生田泰志、千住真智子、太田 順康、井上功一、鉄口宗弘、 小川剛司、石川美久、林洋輔
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		
授業の到達目標及びテーマ 各自の身体能力を知り、個々の状態に適した身体活動量を判断し、体を動かす運動の楽しさを知る。また、スポーツを行う上でのルールやマナーを学び、実践できるようになる。			
授業の概要 ボールゲームの実践を通して、生涯スポーツとして運動に親しむ能力を培う。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション（授業の進め方、評価の説明等） 第 2 回：身体能力の把握Ⅰ（文部科学省新体カテスト屋外種目の測定） 第 3 回：身体能力の把握Ⅱ（文部科学省新体カテスト屋内種目の測定） 第 4 回：トレーニング（最大心拍数の 65～70% での 30 分間走） 第 5 回：体力回復プログラム 第 6 回：ソフトバレーボールの個人基礎技術Ⅰ（パス・サーブ・サーブレシーブ） 第 7 回：ソフトバレーボールの個人基礎技術Ⅱ（スパイク・ブロック） 第 8 回：ソフトバレーボールの基礎技術の応用と理解Ⅰ（サーブレシーブフォーメーション） 第 9 回：ソフトバレーボールの基礎技術の応用と理解Ⅱ（ポジショナルフォルト） 第 10 回：ソフトバレーボールのゲーム及び審判法の獲得（チーム戦術） 第 11 回：バドミントンの基礎技術Ⅰ（基本的なストローク（クリアー）） 第 12 回：バドミントンの基礎技術Ⅱ（基本的なストローク（ドロップ、スマッシュ）） 第 13 回：バドミントンの基礎技術Ⅲ（基本的なストローク（ヘヤピン、サービス）） 第 14 回：バドミントンのゲーム及び審判法の獲得Ⅰ（シングルの戦術） 第 15 回：バドミントンのゲーム及び審判法の獲得Ⅱ（ダブルスの戦術）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 適宜授業中に提示する			

学生に対する評価

- 1) 各種目の運動技能 (50%)
- 2) 毎時間の学習カードの記録状況 (50%)

授業科目名： スポーツ実技b	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 生田泰志、千住真智子、太田 順康、井上功一、鉄口宗弘、 小川剛司、石川美久、林洋輔
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>様々なスポーツ技術や戦術を身につけ、スポーツ実践を通して獲得した体力を今後のスポーツ体験に活かし、生涯スポーツとして継続的にスポーツ実践できる。また、スポーツを行うためのマナーやルールを理解し実践できる。</p>			
授業の概要			
<p>各球技のスポーツ実践を通して、体力の向上を図り、各種スポーツの技術や戦術を理解させる。とくに、「ボールを持たない動き」を意識させる。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、成績評価、コース選択等）			
第2回：ソフトボールの個人基礎技術（キャッチボール・バッティング）			
第3回：ソフトボールの基礎技術の応用と理解（守備のフォーメーション）			
第4回：ソフトボールのゲーム及び審判法の獲得（チーム戦術）			
第5回：サッカーの個人基礎技術（パス・ドリブル・シュート）			
第6回：サッカーの基礎技術の応用と理解Ⅰ（守備のフォーメーション）			
第7回：サッカーの基礎技術の応用と理解Ⅱ（攻撃のフォーメーション）			
第8回：サッカーのゲーム及び審判法の獲得（チーム戦術）			
第9回：バレーボールの個人基礎技術（パス・サーブレシーブ・スパイク・ブロック）			
第10回：バレーボールの基礎技術の応用と理解Ⅰ（守備のフォーメーション）			
第11回：バレーボールの基礎技術の応用と理解Ⅱ（攻撃のフォーメーション）			
第12回：バレーボールのゲーム及び審判法の獲得（チーム戦術）			
第13回：バスケットボールの個人基礎技術（パス・ドリブル・シュート）			
第14回：バスケットボールの基礎技術の応用と理解（守備と攻撃のフォーメーション）			
第15回：バスケットボールのゲーム及び審判法の獲得（チーム戦術）			
テキスト			
特になし			

参考書・参考資料等

適宜授業中に提示する

学生に対する評価

- 1) 各スポーツの技能について、各自で到達目標を定め、その達成度を評価する (40%)
- 2) 毎時間の学習カードの記述状況と取り組み方を毎時間ごとの評価とする (60%)

授業科目名： 外国語コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：ブラウン ロバー ト サンボーン
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ (1)リスニングと基礎的なスピーキングの能力向上を目指す。 (2)プレゼンテーションの技術を身につける。 (3)英語の総合的な基礎力を固める。			
授業の概要 テキストを中心に授業を進める。さらに、ポキャブラリーテスト、音楽を使った穴埋め問題、ストーリーテリング、学生によるスピーチ、ミニ教育実習なども行う。授業一回につき大体一章のペースで進める。ペアやグループで行う活動も含まれる。中間試験、期末試験も行う。			
授業計画 第1回：シラバスの説明、授業内容を紹介する 第2回：UNIQLO Aims High - ユニクロがめざす高い目標とは 第3回：Study Finds How TV Affects Children's Behavior - テレビが子どもたちに及ぼす影響 第4回：Texting & Driving...It Can't Wait - 危険な運転中のメール 第5回：Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals - 期末試験前のドッグセラピー 第6回：ミニ教育実習（発表会） 第7回：Bringing Clean Water to the World through Charity: Water - 世界中にきれいな水を届けるための慈善活動 第8回：Tutoring for Tots - 幼児教育、中間試験 第9回：A Wave of Asian Immigrants - 押し寄せるアジアからの移民 第10回：Facebook Envy - フェイスブックを見ると気が滅入る？ 第11回：Smart Networking Tips - 就職先を見つけるためのヒント 第12回：Bringing Manufacturing Back to the U.S. via the Robot - ロボットでアメリカに製造業を取り戻す 第13回：Manners 101 - 有名大学でマナー講座 第14回：Baby Boomers Moving Back to Cities - 団塊の世代、街に戻る 第15回：Law Students Struggle to Find Work - 法科大学院生の就職難 期末試験 テキスト			

*CBS NewsBreak 2* 『CBSニュースブレイク 2』

熊井 信弘、Stephen Timson 共著・成美堂

参考書・参考資料等

プリントなど

学生に対する評価

- ・授業への取り組み：35%
- ・中間試験：10%
- ・期末試験：10%
- ・スピーチ：20%
- ・ミニ教育実習：10%
- ・小テスト等：10%
- ・ミニスピーチ：5%

授業科目名： 情報活用基礎 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 尾崎 拓郎
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>大学生として、必要最低限なICT活用の基礎を身につけること、すなわち、大学のICT環境やメディアリテラシー、PCやインターネットの仕組み、情報セキュリティ対策等の基本的なテーマについて理解し、それらを他者に説明できることをPCを活用した実習を通して身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本学におけるICT環境の活用に関して習得した後、基礎的な情報リテラシーについて座学と関連事項の演習によって知識とPC活用能力の向上を図るものである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス・大学のICT環境  第2回：PCのセットアップ確認・PC活用到達度の確認  第3回：メディア・リテラシー（PCを用いた電子メールの活用）  第4回：PCの仕組み  第5回：インターネットの仕組み  第6回：ネットコミュニケーションとクラウドコンピューティングの活用  第7回：情報セキュリティ対策  第8回：著作権</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「日経パソコンEdu」連携テキスト：基礎から学ぶICTリテラシー第2版，日経BP社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「日経パソコンEdu」（Webで閲覧可能なデジタル学習コンテンツ）のほか，必要に応じて授業中に指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各授業回の確認テストのほか，演習，定期試験を総合して評価を行う。</p> <p>評価割合：確認テスト50%，演習30%，最終試験20%</p>			

授業科目名： 情報活用基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 尾崎 拓郎
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 情報活用基礎Ⅰの内容を踏まえた上で、本学のICT環境の発展的な活用実践力を身につけることを目標とする。具体的に、クラウド環境の活用について、実習を通じて様々な表現方法の獲得を目標とする。			
授業の概要 本学が利用可能なクラウド環境を俯瞰した後、受講者間で交流可能なICT活用について、クラウド環境の実習を通して実践力の向上を図るものである。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 第2回：クラウド環境の活用（1）－クラウドストレージ－ 第3回：クラウド環境の活用（2）－コミュニケーションツール－ 第4回：クラウド環境の活用（3）－資料の共同作成－ 第5回：クラウド環境の活用（4）－作成資料の相互評価－ 第6回：クラウド環境の活用（5）－プレゼン資料の作成と動画収録－ 第7回：クラウド環境の活用（6）－プレゼン発表の相互評価－ 第8回：クラウド環境活用のまとめ			
テキスト 「日経パソコンEdu」 連携テキスト：基礎から学ぶICTリテラシー第2版，日経BP社			
参考書・参考資料等 「日経パソコンEdu」（Webで閲覧可能なデジタル学習コンテンツ）のほか，必要に応じて授業中に指示する。			
学生に対する評価 各授業回の演習課題のほか，制作作品の相互評価活動を踏まえて総合的に評価を行う。 評価割合：演習課題30%，作品制作課題70%			

授業科目名： 教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：瀬戸口 昌也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想（教育の意義・目的・価値、教育の内容・課程・方法・評価、教師像と子ども観、教育制度・法規、健康・安全、人権・福祉など）を歴史的・体系的に理解することによって、教職に対する関心を広げ、現代のグローバル社会およびダイバーシティ社会における学校教育に対する問題意識を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義はまず、人間と教育とのかかわりを人間学的・歴史的観点から考察し、教育の根底にある基本的な考えを考察する。その後、教育が行われている領域別(学校・家庭・地域社会等)にそれぞれの教育内容の現状と課題を考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育とは何か(教育の意味と思想)。  第2回：教育は何のために必要なのか(教育の目的)。  第3回：教育はどのような仕組みで行われるのか(学校教育制度)  第4回：学校の役割とは何か(学校教育の歴史)  第5回：学校教育で何が問題となっているのか(生徒指導の原理と課題)  第6回：今、学校で何が教え、学ばれているのか(教育方法の原理)  第7回：家庭教育では何が問題となっているか(家庭教育の原理と課題)  第8回：社会教育とは何か(社会教育の思想と現状)；定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストは用いない。授業時に随時参考資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>広田照幸『ヒューマニティズ 教育学』、岩波書店、2009年；ISBN 9784000283243  井藤元編『ワークで学ぶ教育学』、ナカニシヤ出版、2015年；ISBN 9784779509322</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加意欲・学習態度・発表内容、課題の提出等40 %  定期試験の成績60 %</p>			

授業科目名： 教職へのとびら	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：八田幸恵 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容、教師の学習のあり方等について身に付け、教職への意欲を高め、教師としての学びを実践する素地を培う。			
授業の概要 どのような学校を担う、どのような教師になるために、どのような学習をすることが求められるのかという問いのもと、世界と日本における教職の社会的役割の歴史の変遷、教師の仕事の全体像、教師の学びのあり方について扱う。			
授業計画 第1回：教師の仕事（1）授業という世界 第2回：教師の仕事（2）生活指導、ケア、学校の福祉機能 第3回：世界の中の日本の教師（1）教職を志望する理由、日本の教師文化、他の職業との比較 第4回：世界の中の日本の教師（2）他国の教師、TALIS 調査結果など 第5回：時代の中の教師像と教員養成（1）師範学校から大学における教員養成へ、開放制教員養成、免許状主義、教職課程の基本構造、フラッグシップ事業 第6回：協働と学習（1）教師の職務内容、服務規程 第7回：協働と学習（2）教員研修制度、学び続ける教師、チーム学校運営 第8回：第1～7回のまとめ			
テキスト ない			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 全授業を通したレポート課題（80%）、授業中の発表内容（20%）			

授業科目名： 学校の役割と経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中 真秀 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：社会のなかで実際の学校が果たしてきた役割を見つめ、未来の学校づくりに向けた意欲と視点を身につける。			
授業の概要：学校での指導経験に基づき、現代の学校が直面している課題を整理し、その課題を克服するための学校制度や法体系、学校経営の在り方について解説する。また、学校と地域の連携及び協働について具体例を通して、その在り方を考える。			
授業計画			
第1回：教育の現代的課題（1）オリエンテーション、コンピテンシーベースのカリキュラム、OECDの動向、中教審答申			
第2回：教育の現代的課題（2）新学習指導要領と子どもの学び、特別な配慮を要する児童の指導			
第3回：教育の現代的課題（3）不登校・いじめ等生徒指導、学校と地域との連携			
第4回：教育の制度（1）学校制度及び義務教育制度の体系、国と地方の教育行政			
第5回：教育の制度（2）教育の法体系、教育を受ける権利、教育の機会均等、教育格差			
第6回：学校を経営するということ（1）学校組織の特徴と構造、同僚性、働き方や組織改革、チーム学校、			
第7回：学校を経営するということ（2）学校経営計画、PDCA、地域との連携、コミュニティスクール、学校評価			
第8回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等：学習指導要領、中教審答申など			
学生に対する評価、授業への主体的参加と授業毎の課題の提出（60%） まとめの小論文（40%）			

授業科目名： 学校安全	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤田大輔 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における安全管理と安全教育に関わる基本的事項を理解するとともに、児童・生徒を対象とした安全学習や安全指導を効果的に展開する能力を育成する。</li> <li>・学校の管理下で発生する事故・災害に対する危機対応（リスク・マネジメント）のための基礎的技能を習得する。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>わが国における「学校安全」の考え方の歴史的な変遷と、学校の管理下で過去に発生した事件・事故・災害事例から得られた教訓の重要性について理解する。その後、児童・生徒の安全実践能力を育成するための効果的な教育教材や指導計画の作成方法と教職員の危機対応能力を育成するための実践方法について学習する。</p>			
授業計画			
第1回：学校安全の概念			
第2回：学校安全の領域構造			
第3回：学校安全の推進とセーフティプロモーションスクール			
第4回：安全教育の展開			
第5回：安全指導の展開			
第6回：安全教育教材の開発			
第7回：学習指導要領（安全教育領域）			
第8回：学習指導要領（安全教育関連領域）			
第9回：附属池田小学校事件の概要			
第10回：事件・事故の発生時の対応Ⅰ			
第11回：事件・事故の発生時の対応Ⅱ			
第12回：不審者対応訓練			
第13回：学校事故対応と災害共済給付制度			
第14回：事例に学ぶ安全教育の実際			
第15回：事故に学ぶ安全管理の実際			
定期試験			
テキスト			
教師のための学校安全 一改訂版一（小山健蔵・藤田大輔・白石龍生・大道乃里江著、学研教育みらい）2014			

参考書・参考資料等

必要な資料は授業中に配布する。

学生に対する評価

授業の参加態度（小レポートの提出を含む）（40％）と期末試験（60％）で評価する。

授業科目名： 発達と学習の心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小松 孝至、高 橋 登、渡邊 創太 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業は，（１）幼児期・児童期・青年期を含む人間の心理的発達に関する基礎的な理解とともに，子どもの発達や個人差を知るための心理学的な方法について基礎的な理解をもつこと，（２）人間の行動が変化するしくみや新たに知識を得る過程に関する心理学的な理解をもつことを主要な目的としている。さらに，心理学に基づく実証的・論理的な子ども理解・人間理解をもとに，さまざまな子どもへの指導や援助のありかた，望ましい授業のありかたなどについて考えることができるようになることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児・児童から青年期にいたる子どもの発達および学習の基礎的過程と，その個人差を理解し支援するための教育測定や評価などについて概説する。また，必要に応じて簡単な実験や調査，グループ課題を実施することにより，理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入・心理学の基礎的な考え方（授業の進め方，成績評価について説明するとともに，心理学の基礎的な問題意識，データに基づく議論であること，心理学の知見がどこまで適用可能かといった点について説明する。）</p> <p>第2回：心理学における「学習」の考え方と応用1（主に道具的条件づけのプロセスとその応用について，具体的な教育場面に即して説明する。）</p> <p>第3回：心理学における「学習」の考え方と応用2（主に古典的条件づけのプロセスとその応用，観察学習のプロセスとその応用について具体的な教育場面に即して説明する。）</p> <p>第4回：学習動機づけとその関連要因1（自己効力感，原因帰属，学習性無力感などの概念を中心に，学ぶことの動機づけと関連する要因を，具体的な教育場面に即して説明する。）</p> <p>第5回：学習動機づけとその関連要因2（内発的動機づけの概念やその重要性，動機づけにおける自己の育ちの重要性などを，具体的な教育場面に即して説明する。）</p> <p>第6回：記憶のしくみの基礎1（長期記憶のネットワークモデルや，記憶の多様性などを解説するとともに，それらが学校教育とどのように結びつくかを解説する。）</p> <p>第7回：記憶のしくみの基礎2（記憶の二重貯蔵庫モデルをふまえて，ワーキング・メモリー概念を解説し，その理解の上で子どもの支援について説明する。）</p> <p>第8回：子どもの発達と教育1（乳児期から幼児期にかけての発達過程にまつわるいくつかの</p>			

トピックを挙げつつ、子どもの認識や理解の発達について解説する。)

第9回：子どもの発達と教育2（児童期の発達過程にまつわるいくつかのトピックを挙げつつ、子どもの認識や理解の発達について解説する。)

第10回：子どもの発達と教育3（児童期後期から青年期にかけての発達過程にまつわるいくつかのトピックを挙げつつ、児童・生徒の認識や理解の発達について解説する。)

第11回：心理測定とテスト1（学力や子どもの特性を測定するテストの基礎的な考え方（信頼性・妥当性など）を解説するとともに、その得点の処理にかかわる基礎的な概念（分布・標準得点等）とその意義を説明する。)

第12回：心理測定とテスト2（評価が教育の基礎となることを具体例から説明したうえで、児童・生徒の理解と支援のために必要な検査のあり方や意義を実例をもとに説明する。)

第13回：クラス運営と心理学（クラス担任の役割やその行動の分析を示し、クラスという集団の心理学的な理解を説明する。)

第14回：授業づくりと心理学（授業づくりのありかたを教師と子どもの相互作用という観点から検討する。)

第15回：まとめ（本講義で取り扱われた種々の内容について、再度、具体的な教育現場での事象と関連づけつつまとめる。)

定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

教育心理学 I 発達と学習指導の心理学（大村彰道編，東大出版会）

やさしい教育心理学 改訂版（鎌原雅彦・竹綱誠一著，有斐閣）

学生に対する評価

毎回授業中に出題・回答する課題（30%），定期試験（70%）

授業科目名： 特別支援教育の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：野田 航 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育やインクルーシブ教育システムに関する制度の理念や仕組みを理解する。 障害観・人間観について理解を深める。 特別支援教育の対象となる児童生徒の教育支援の現状と課題を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>障害とは何か，特別支援教育やインクルーシブ教育に関する制度の理念や仕組みを解説した上で，通常学級で学ぶ特別な教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の特性や支援方法について概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育とは 第2回：障害観を捉え直す（障害の社会モデル） 第3回：特別支援教育の制度と教育課程及び校内連携と保護者連携 第4回：インクルーシブ教育と合理的配慮 第5回：発達障害の理解と支援の基礎（通常学級における支援および自立活動の視点から） 第6回：自閉スペクトラム症，注意欠如多動症，学習症の理解と支援 第7回：発達障害以外の様々な障害のある子どもの理解と支援 第8回：障害はないが特別な教育的ニーズ（母国語や貧困の問題等）のある子どもの理解と支援</p>			
<p>テキスト</p> <p>レジュメを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>最終レポート（60%），毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）</p>			

授業科目名： 教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田 茂孝 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教育における教育課程の意義及び編成のあり方の基本的な知識を理解し、学習指導要領の変遷をはじめ今日の教育改革や教育実践の特徴を考察する。その特徴をはじめ各学校の実情や子どもたちの実態をふまえた具体的なカリキュラム編成を提起することができる。			
授業の概要 本授業では、教育課程の意義及び編成のあり方の観点から、教育実践の歴史と原理を講ずるとともに、具体的な実践事例（教育課程、指導計画など）を検討し、カリキュラム編成を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：現代の学校と社会 第2回：教育課程の原理と歴史 第3回：学習指導要領の改訂の変遷 第4回：学習指導要領の基本的な考え方 第5回：現行学習指導要領の特徴－カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価 第6回：教育課程の構造－教科・領域のカリキュラム 第7回：教育課程の編成原理と類型－単元の配列と年間指導計画 第8回：教育課程の展望 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省）			
学生に対する評価 授業への参加態度・毎回の課題提出（40％）、定期試験（60％）			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森本和寿、佐藤雄一郎 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間の意義、目標および内容、教育課程における歴史や役割を理解するとともに、実践事例の検討を通して、総合的な学習の時間の指導案並びに評価の方法を構想し、見直しをもって指導にあたる実践的力を培う。			
授業の概要 総合的な学習の時間の意義、目標および内容、歴史や指導法並びに評価の方法について、先行実践を読み深めながら探究していく。先行事例をグループごとに読み深めながら、ディスカッション等を通じて協働して指導計画等を具体的・実践的につくることを通して、その背景にある理論や意義等を理解することを目指す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：総合的な学習の時間で育てたい資質・能力 第2回：教育課程・学習指導要領における「総合的な学習の時間」の位置づけ 第3回：総合的な学習の時間の具体的実践：各教科と結びつけて地域の課題に取り組む 第4回：総合的な学習の時間の具体的実践：探究活動の意義 第5回：総合的な学習の時間の具体的実践：評価の方法 第6回：総合学習のカリキュラム・マネジメント 第7回：総合学習の年間指導計画・単元計画の作成 第8回：総括			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 ・文部科学省「小中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（平成29年7月） ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」（平成30年7月） 授業内でレジュメを配布し、授業内容や受講生の授業コメントを踏まえながら、適宜参照すべき文献を示す。			
学生に対する評価			

- ・授業コメント 50点：授業内容の理解について問うコメントを求める
- ・中間試験 30点：基礎的な知識事項について問う
- ・最終課題 20点：総合学習に関するレポートを課す

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森本和寿、佐藤雄一郎
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
特別活動の意義、目標および内容、教育課程における歴史や役割を理解するとともに、実践事例の検討を通して、特別活動の指導案並びに評価の方法を構想し、見通しをもって指導にあたる実践的力を培う。			
授業の概要			
特別活動の意義、目標および内容、歴史や指導法並びに評価の方法について、先行実践を読み深めながら探究していく。先行事例をグループごとに読み深めながら、ディスカッション等を通じて協働して指導計画等を具体的・実践的につくることを通して、その背景にある理論や意義等を理解することを目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：特別活動で育てたい資質・能力、特別活動の目標と内容			
第2回：教育課程・学習指導要領における特別活動の位置づけ：戦前、戦中、戦後、現在			
第3回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：生活綴方に学ぶ家庭や地域とのかかわり			
第4回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：「仲間づくり」に学ぶ意思決定、「集団づくり」に学ぶ合意形成			
第5回：クラブ活動の具体的実践：「学級文化活動」実践に学ぶ評価・改善活動			
第6回：児童会・生徒会活動及び学校行事の具体的実践			
第7回：特別活動のカリキュラム・マネジメント			
第8回：特別活動の年間指導計画・単元計画の作成、総括			
テキスト			
・吉田武男・京免徹雄編『特別活動』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
・文部科学省「小中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月）			
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成30年7月）			
授業内でレジュメを配布し、授業内容や受講生の授業コメントを踏まえながら、適宜参照すべき文献を示す。			
学生に対する評価			

- ・授業コメント 50点：授業内容の理解について問うコメントを求める
- ・中間試験 30点：基礎的な知識事項について問う
- ・最終課題 20点：特別活動に関するレポートを課す

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田 茂孝 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 学校教育における教育の方法と技術の基本的な知識を理解し、今日求められる資質・能力を育成するための教育の方法及び教育の技術の特徴を考察する。その特徴をはじめ子どもたちの実態をふまえた指導技術を提起することができる。			
授業の概要 本授業では、教育の方法と技術の観点から教育実践の歴史と原理を講ずるとともに、資質・能力を育成するために求められる教育方法を検討し、具体的な指導技術を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：現代の学校・社会と子ども観 第2回：教育方法の原理と歴史 第3回：教育的タクトと学習指導案づくり 第4回：授業過程と教授行為（発問など指導技術を含む） 第5回：教材の活用と開発の理論 第6回：学習形態の交互転換と主体的・対話的で深い学び 第7回：教育評価の類型と機能－学習評価の基礎的な考え方 第8回：教育方法の展望 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省）			
学生に対する評価 授業への参加態度・毎回の課題提出（40％）、定期試験（60％）			

授業科目名： ICT活用の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：若杉祥太 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場におけるICT活用の意義や理論について説明できる。</li> <li>・ICTを活用した学習指導や今後のICT活用による教育の在り方について説明できる。</li> <li>・情報活用能力を育成する意義および育成方法について説明できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その歴史的経緯や意義、理論、今後の方向性を理解する。教員によるICTを活用した学習指導や児童生徒によるICTを活用した学習などについて、講義及び視聴覚教材による解説・事例紹介を中心に体験的な学修を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 現代社会におけるICTの役割</p> <p>第2回：教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用</p> <p>第3回：特別支援・幼児教育におけるICT活用</p> <p>第4回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業</p> <p>第5回：児童生徒によるICT活用</p> <p>第6回：児童生徒の情報活用能力の育成</p> <p>第7回：校務の情報化とデータ活用による教育</p> <p>第8回：授業のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲垣忠・佐藤和紀（編著）、ICT活用の理論と実践、北大路書房、2021年</li> </ul>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋純・寺嶋浩介（編著）、初等中等教育におけるICT活用、ミネルヴァ書房、2018年</li> <li>・林 徳治・藤本 光司・若杉 祥太（編著）、アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ、ぎょうせい、2020年</li> </ul>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポートによる評価100%</p>			

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤 雄一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導の意義や原理を理解し、教育活動全体を通じた指導の視点と方法について説明することができる。また、今日の生徒指導上の課題とその背景に関する理解をふまえ、校内外の連携も含め、具体的な指導のあり方を構想する実践的力量を培う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>文部科学省が発行している資料、生徒指導上の課題に関する学術的知見、生徒指導に関する実践事例を用いて、今日の生徒指導上の課題に対する具体的な指導のあり方を学ぶ。各回においては、他者との意見交流やグループワーク等を通じて、協働的に学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション／生徒指導とは何か： 生徒指導の定義と目的、『生徒指導提要』の改訂</p> <p>第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ： 生徒指導の機能、生徒指導の四視点、生徒指導の構造（二軸三類四層構造）</p> <p>第3回：児童の権利と生徒指導の方法原理： 集団指導と個別指導、児童生徒理解、児童の権利に関する条約</p> <p>第4回：児童生徒の発達と特別な教育ニーズ： 発達段階論、発達障がい等の特別な教育ニーズのある児童生徒への支援・指導</p> <p>第5回：暴力行為・いじめへの対応： 暴力行為およびいじめの実態、いじめ発生のメカニズム、いじめの対応、いじめの予防</p> <p>第6回：不登校児童生徒への支援： 不登校の実態、不登校の要因、不登校支援のあり方</p> <p>第7回：発達支持的生徒指導と集団指導： 発達支持的生徒指導、集団指導と個別指導の固有性と関連性、ルールに関する指導方法、自治的な活動の指導方法</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・文部科学省『生徒指導提要 令和4年12月』東洋館出版社 2023年</p>			

- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東山書房 2019年  
加えて、授業内容および学生のコメントに応じて、レジュメおよび参考資料を配布する。

学生に対する評価

授業における課題提出（30%）、レポート試験（70%）

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：水野 治久、上田 裕美、大河内 浩人
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1) 教師が行う子どもの指導と援助について、心理学の基礎的な理論を理解している。</p> <p>2) 教育相談（カウンセリングを含む）など教師が行う子ども援助の技法について理解している</p> <p>3) いじめや不登校など子どもの問題行動について理解している</p>			
授業の概要			
日々様々な出来事の起こる学校現場で、児童・生徒の心理・発達的問題に適切に対処するには、状況を理論的にとらえ、理論的理解に基づくより効果的な対応を行う必要がある。こうしたことから本講義では、児童・生徒の心理的・発達の諸問題の理解と援助方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 学校における教育相談の意義（生徒指導・学級経営との関連）			
第2回：児童生徒の理解（アセスメント）と児童生徒の援助要請の受け止め			
第3回：児童生徒へのカウンセリングの基礎技法（受容・共感）			
第4回：児童生徒の行動に介入していく方法			
第5回：教師の行動を変え、児童生徒を援助する方法			
第6回：児童生徒の考え方に介入していく方法			
第7回：いじめ・不登校の事例分析（校内外の専門家、専門機関との連携）			
第8回：外部機関との連携（虐待や貧困などの課題にどう向き合うか）			
定期試験 各トピックのふりかえり試験			
テキスト 資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
水野治久 2022 子どもを支える「チーム学校」ケースブック 金子書房 978-4760824434			
学生に対する評価			
試験（70%）、レポート（30%）			

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤 雄一郎 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>進路指導及びキャリア教育の意義や原理を理解し、教育活動全体を通じた指導の視点と方法について説明することができる。また、今日の進路指導及びキャリア教育の課題に関する理解をふまえ、校内外の連携も含め、具体的な指導のあり方を構想する実践的力量を培う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>文部科学省が発行している資料、進路指導及びキャリア教育の課題に関する学術的知見、進路指導及びキャリア教育に関する実践事例を用いて、今日の進路指導及びキャリア教育の課題に対する具体的な指導のあり方を学ぶ。各回においては、他者との意見交流やグループワーク等を通じて、協働的に学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション／進路指導・キャリア教育とは何か： 進路指導の定義と目的、キャリア教育の定義と目的、『キャリア教育の手引き』の改訂</p> <p>第2回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ： 教育課程における進路指導・キャリア教育の機能、ガイダンス、カウンセリング、育成すべき資質・能力（四領域八能力）、進路指導・キャリア教育の課題、</p> <p>第3回：進路指導・キャリア教育における教職員・家庭・関係機関との連携： 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制、家庭や関係機関との連携</p> <p>第4回：職業に関する体験活動とカリキュラム・マネジメント： 職業に関する体験、特別活動や総合的な学習の時間等との関連、カリキュラム・マネジメント、実践事例</p> <p>第5回：キャリア教育の視点に立った授業改善と評価改善 キャリア教育の視点に立った授業改善、ポートフォリオの活用等の評価改善、実践事例</p> <p>第6回：生徒に応じた進路指導・キャリア教育 生徒に応じた個別の進路指導・キャリア教育の課題、キャリア・カウンセリング、実践事例</p> <p>第7回：社会的・職業的自立と進路指導・キャリア教育／まとめ 社会的自立とは何か、職業的自立とは何か、実践事例</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			

参考書・参考資料等

- ・文部科学省『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』実業之日本社 2023年
  - ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東山書房 2019年
- 加えて、授業内容および学生のコメントに応じて、レジユメおよび参考資料を配布する。

学生に対する評価

授業における課題提出（30％）、レポート試験（70％）

教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名：瀬戸口昌也、石川聡子、小松孝至、吉田茂孝、小林将太	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数	20人（複数の教員が担当し、受講生をグループ分けして指導する。）				
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>教育の基礎的理解に関する科目等の担当教員を中心に教科に関する科目の担当教員との連携・協力体制のもとで実施する。さらに、現場の教員又は教員勤務経験者（附属学校園教員、地域連携・教育推進センター教員、実地指導非常勤講師等）の講義を行う。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ポートフォリオをもとにして、大学4年間の学修や実践的教育活動などを通して身につけた資質能力について自己分析をおこない、成果と課題を洗い出し、教職実践演習で身につけるべき自己目標を設定する。課題を補完したり発展させるためのミニ講座を受講し、教職実践演習の成果をふりかえるとともに、指導教員との面談を通して4年間の学修の成果と発展的課題を確認する。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>第1ブロックにおいて指導教員と面談をおこない、4年間の学修で身に付けた資質能力について自己分析し、成果と課題を明らかにする。課題を補い、発展させるために第2ブロックの「ミニ講座」を受講し、第3ブロックにおいて、指導教員との面談を通して教職実践演習の学修成果を確認するとともに、教職への展望を明らかにする。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回：第1ブロック：ガイダンス① 教職実践演習の内容と方法、教師になるために必要な資質能力の4つの指標について確認する。</p> <p>第2回：第1ブロック：ガイダンス② ICT（情報通信技術）を活用し、電子ポートフォリオの「学修成果シート」、「履修カルテ（自己評価）」、「履修カルテ（科目の履修状況）」を確認し、資質能力の指標に沿って自己分析をおこない、指導教員との面談を通して、「教職実践演習」における自己目標を設定する。受講を希望する第2ブロックミニ講座を選定する。</p> <p>第3回：第2ブロック：ミニ講座（前半）① ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT（情報通信技術）を活用しながら学修し、学修内容および今後活かすこと等を記録する。</p> <p>第4回：第2ブロック：ミニ講座（前半）② ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT（情報通信技術）を活用しながら学修し、学修内容および今後活かすこと等を記録する。</p> <p>第5回：第2ブロック：ミニ講座（前半）③ ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT（情報通信技術）を活用しながら学修し、学修内容および今後活かすこと等を記録する。</p> <p>第6回：第2ブロック：ミニ講座（前半）④ ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT（情報通信技術）を活用しながら学修し、学修内容および今後活かすこと等を記録する。</p> <p>第7回：第2ブロック：ミニ講座（前半）⑤ ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT（情報通信技術）を活用しながら学修し、学修内容および今後活かすこと等を記録する。</p> <p>第8回：第2ブロック：ミニ講座（後半）① ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT（情報通</p>					

<p>信技術)を活用しながら学修し、学修内容および今後に活かすこと等を記録する。</p> <p>第9回：第2ブロック：ミニ講座(後半)② ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT(情報通信技術)を活用しながら学修し、学修内容および今後に活かすこと等を記録する。</p> <p>第10回：第2ブロック：ミニ講座(後半)③ ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT(情報通信技術)を活用しながら学修し、学修内容および今後に活かすこと等を記録する。</p> <p>第11回：第2ブロック：ミニ講座(後半)④ ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT(情報通信技術)を活用しながら学修し、学修内容および今後に活かすこと等を記録する。</p> <p>第12回：第2ブロック：ミニ講座(後半)⑤ ミニ講座で自己目標の達成に向けてICT(情報通信技術)を活用しながら学修し、学修内容および今後に活かすこと等を記録する。</p> <p>第13回：第3ブロック：ふりかえり① 第2ブロックの学修を受けて、自己目標の達成状況について自己分析をおこなう。</p> <p>第14回：第3ブロック：ふりかえり② 指導教員との面談及びICT(情報通信技術)を活用して電子ポートフォリオを通して、自己分析についてふりかえる。</p> <p>第15回：第3ブロック：ふりかえり③ 「教職実践演習」の学修内容をもとにして4年間の学修成果をふりかえるとともに、将来展望を持つとともに、将来に向けた発展的課題を整理する。</p>
<p>テキスト</p> <p>教職実践演習ガイド&amp;ノート(年度始めに配布)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配付する</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>第1～3ブロックの取組みを総合的に評価する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。